

平成25年度

行政評価 市民公開フォーラム

平成25年9月29日(日)資料

スケジュール

事業 番号	内容・事業名	課名	開始時間
	市長あいさつ スケジュール・注意事項等の説明		9 : 30
1	家族等介護者支援事業	長寿介護課	9 : 40
2	壮年期等保健事業	保健センター	11 : 00
3	災害用備蓄品購入事業	危機管理課	13 : 00
4	多文化共生推進事業	生活交流課	14 : 20

会場：小牧市役所 本庁舎6階
601会議室



小牧市

目 次

傍聴される皆様へ	1 ページ
会場案内図	2 ページ
会場内レイアウト	3 ページ
行政評価市民公開フォーラムの概要	4 ページ
事業シートの見方	8 ページ
比較参考値（近隣4市との比較）	10 ページ
判定シート	11 ページ

行政評価市民公開フォーラム対象事業

事業1 家族等介護者支援事業

（事業シート）	12～15 ページ
（事業説明用資料）	16～25 ページ

事業2 壮年期等保健事業

（事業シート）	26～28 ページ
（事業説明用資料）	29～45 ページ

事業3 災害用備蓄品購入事業

（事業シート）	46～47 ページ
（事業説明用資料）	48～59 ページ

事業4 多文化共生推進事業

（事業シート）	60～62 ページ
（事業説明用資料）	63～72 ページ

傍聴される皆様へ

本日は、お越しいただきありがとうございます。

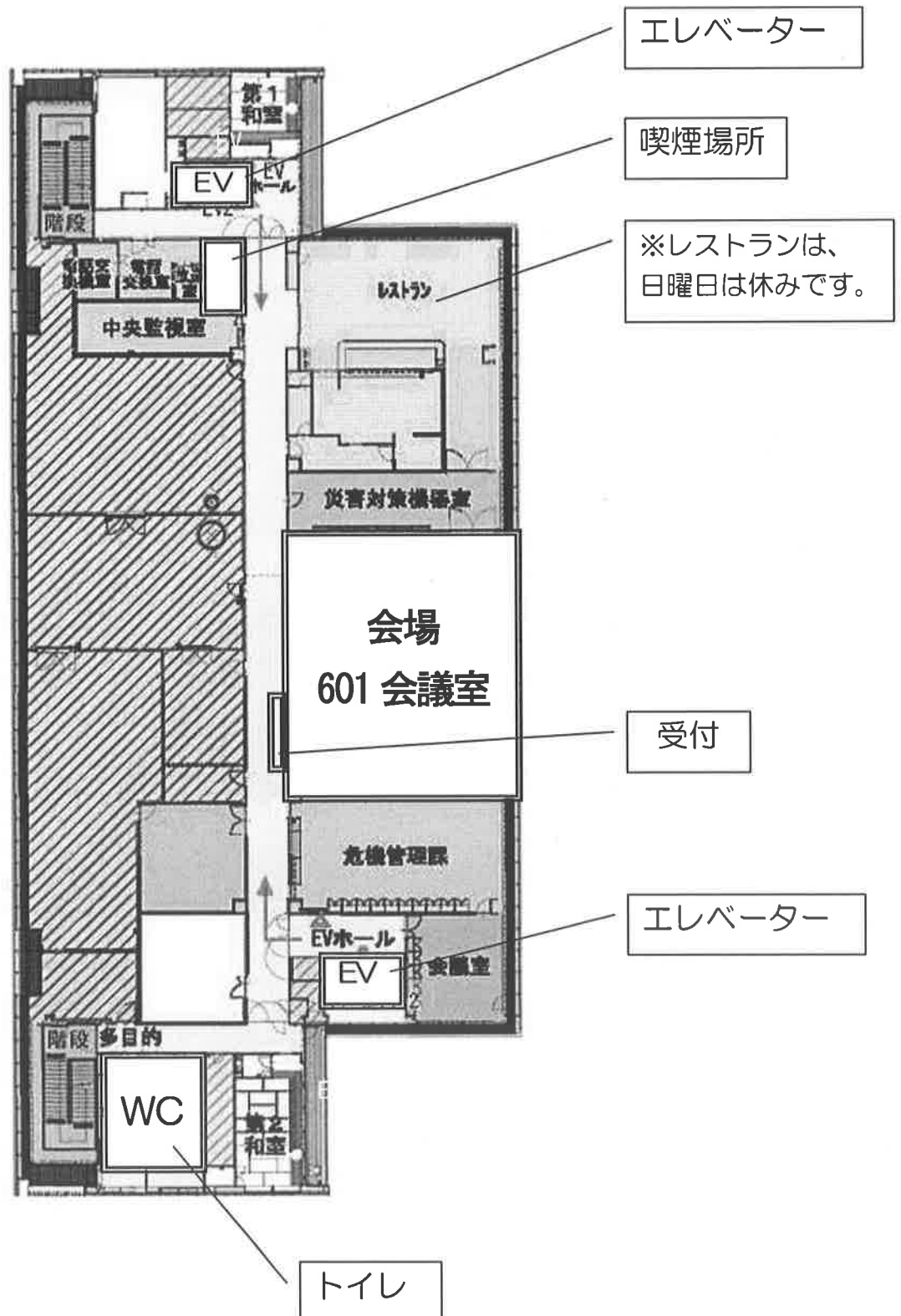
傍聴にあたり、以下の事項をご注意いただきますようお願い申し上げます。

- 本日の評価結果が、当該事業に対する市の最終判断となるものではありません。最終判断は、本日議論された内容等を含め、十分に精査・検討し、市が決定します。
- スケジュールの時間は、議事の進行により多少前後する場合があります。
- 手荷物及び貴重品などの管理は、各自にてお願いいたします。
- 評価中は、静かに傍聴してください。評価中の入退場・座席の移動は極力ご遠慮願います。
- 場内での携帯電話は、マナーモードにするか電源をお切りください。定められた場所以外での喫煙はご遠慮願います。（喫煙場所は6階レストラン前です。P.2参照。）
- 場内での録画、録音、撮影等の規制はしていませんが、評価作業の妨げにならないようにお願いします。その後の活用につきましては、使用方法によりトラブルの原因となることもございますので、「使用者の責任」においてご活用ください。
- 評価作業の内容に公然と批評を加えたり、拍手その他の方法により、賛否を表明したりしないでください。
- 場内に傍聴者の意思を表明するもの（旗、プラカード、横断幕等）を持ち込まないでください。
- 傍聴者からのご意見やご質問は、受け付けできませんのでご了承ください。ご意見がある場合は、アンケート用紙にご記入いただき、回収箱へ投函してください。
- 関係者が取材に入る可能性があります。会場内の様子がテレビや新聞などで紹介される場合もありますのでご了承ください。
- その他、評価作業の支障となるような行為はしないでください。

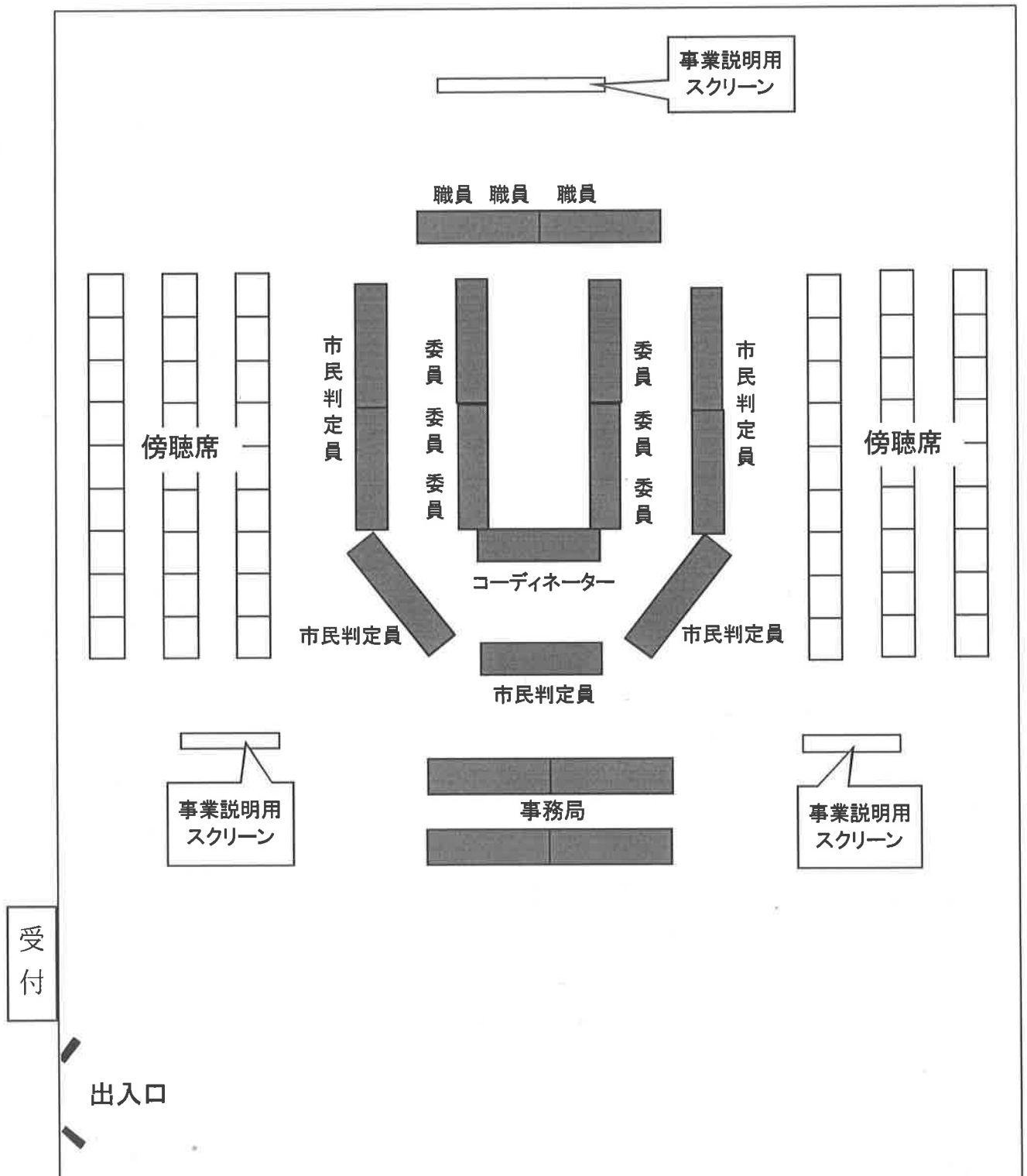
※これらの事項を守っていただけない場合や、コーディネーターや事務局の指示に従っていただけない場合には、退場していただくことがあります。

会場案内図

本庁舎 6 階



会場内レイアウト



行政評価市民公開フォーラムの概要

1. 趣旨

市が実施している事業のうち市民アンケートなどにより選定された事業を対象に、改めて事業のあり方を検討するために、公開の場で第三者に評価していただく、「行政評価市民公開フォーラム」を開催します。

今回の行政評価は、事業の拡大や縮小などの方向性や事業の改善点について外部の視点から意見をいただくことが重要と考え、開催するものです。

また、市民公開フォーラムとして、広く公開して行うことにより、多くの市民の方にお越しいただき、身近な事業への関心を持っていただいたり、地域の課題を考えていただけるきっかけになれば幸いです。

2. 評価体制

評価委員6人（学識経験者、企業経営者、NPO関係者、公募市民）、進行役であるコーディネーター1人で実施します。また、無作為抽出により選定した3,000人の市民のうち、応募のあった方を市民判定員として配置します。

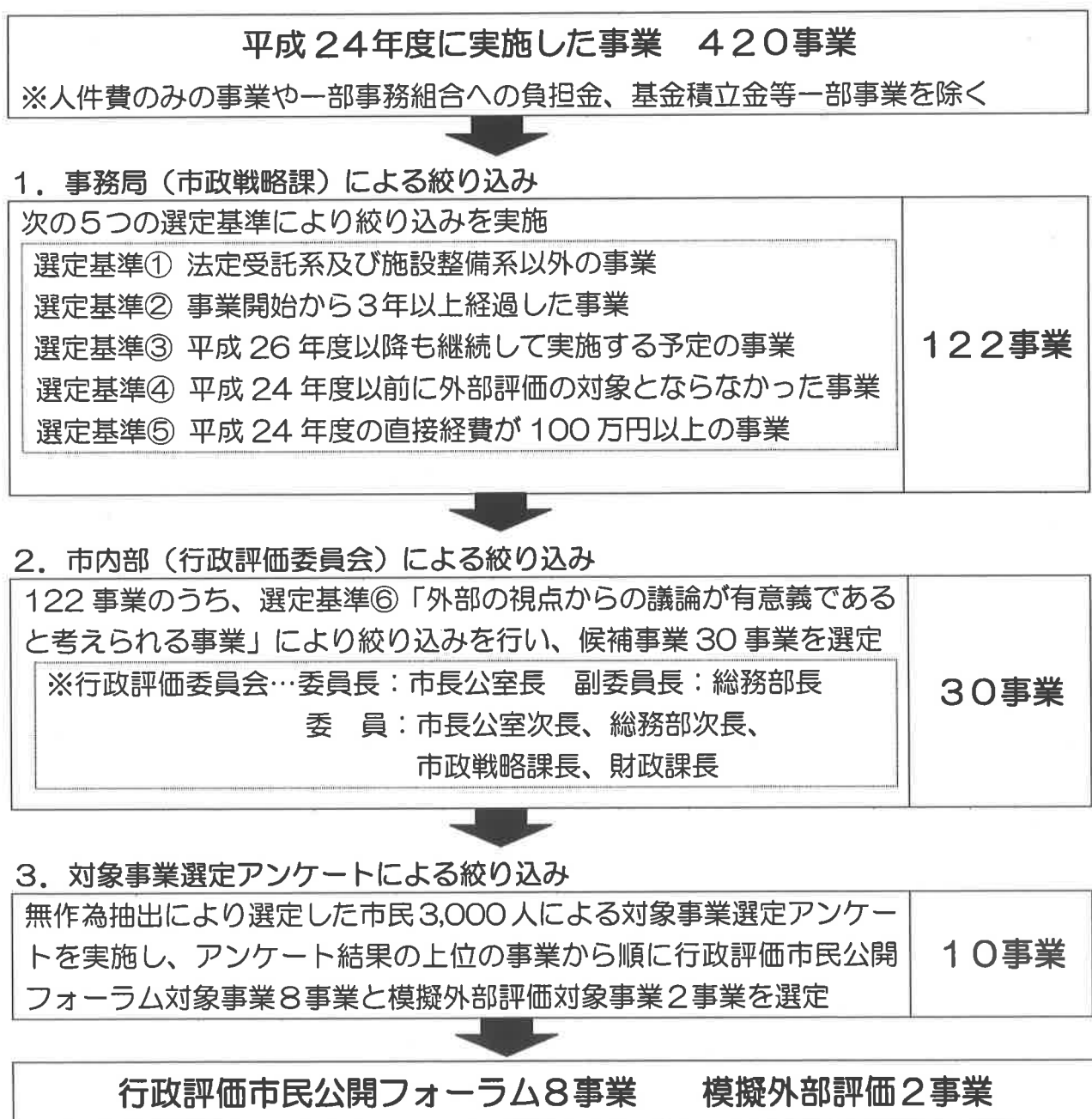
役割	氏名	所属団体、役職等
評価委員	たけなが のぶゆき 武長 脩行	梶山女学園大学 文化情報学部教授
〃	はぎはら あきひさ 萩原 聡央	名古屋経済大学 法学部准教授
〃	まつうら ひでのり 松浦 秀則	あおい交通株式会社 代表取締役社長
〃	まつだ としひろ 松田 敏弘	(特)こまき市民活動ネットワーク 代表理事
〃	いしかわ かずたか 石川 和貴	市民公募委員
〃	にわ なちよ 丹羽 奈知代	市民公募委員
コーディネーター	なかざわ まさなお 中澤 政直	合同会社アスト・コンサルティング

(敬称略)

3. 対象事業

平成24年度に実施した420事業から、選定基準をもとに市内部（行政評価委員会）において、候補事業30事業に絞り込みをしました。その後、候補事業30事業について、無作為抽出により選定した市民3,000人による対象事業選定アンケートを実施し、アンケート結果の上位の事業から順に対象事業（行政評価市民公開フォーラム8事業、模擬外部評価2事業）を選定しました。

対象事業の選定経緯



4. 評価の流れ

事業説明

【10分程度】

- 事業シートの内容を所管課が説明します。（事業の目的・内容・成果・自己評価・課題など）
- 説明に際は、事業説明用資料（パワーポイント）を使って説明します。事業説明用資料は、事業シートに記載された事業内容をより詳しく説明したものです。

質疑応答

【40分程度】

- 評価委員から所管課職員に対して、事業の評価に必要な事項について質問します。（事業の目的の是非、達成手段の妥当性、事業の効果・有効性、実施主体の適否など）
- 市民判定員は質疑には参加できません。

判定

【10分程度】

- 各評価委員が、判定シートに判定結果と判定に至った理由及び改善案を記入します。
- コーディネーターが、判定結果をまとめ、発表します。
- 市民判定員も、同様に判定を行います。
- 判定結果の公表後、市民判定員で希望する人のうち数名の意見を聞きます。

5. 判定区分

下記の判定区分に基づき、評価委員及び市民判定員が、今後、事業のボリューム（実施量）をどうすべきかの判定を行うとともに、その判定に至った理由や改善案に関する意見を「判定シート」（P11 参照）に記載します。

拡	大：対象の拡大や手段の充実等により事業のボリュームを拡大すべきもの
維	持：事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの
縮	小：対象や手段の絞込み等により事業のボリュームを縮小すべきもの
廃	止：事業を廃止すべきもの

※ 判定区分の「維持」については、あくまでも事業のボリュームを現在の規模で実施すべきと判断するものであり、現状の事業内容をそのまま継続すべきという意味ではありません。したがって「維持」であっても、改善案に関する意見を「判定シート」に記載します。

6. 評価結果

コーディネーターは、評価委員の判定の結果をまとめ、最多数を占めた判定区分を班としての判定として発表します。また、改善案も読み上げます。最多数の判定区分が同数の場合は、コーディネーターが班としての判定を調整します。

また、市民判定員の判定結果についてもコーディネーターが公表しますが、判定理由や改善案の読み上げは行いません。

なお、判定結果の公表後、市民判定員で希望する人のうち数名の意見を聞きます。

7. 評価結果の活用

行政評価市民公開フォーラムにより導き出された判定は、市の最終決定でなく、議論された内容等を含め今後の事業のあり方について十分に精査・検討を行ったうえで、市としての今後の方針を決定し、次年度以降の予算編成や事業計画への反映に努めます。

事業シートの見方

事業の概要	事務事業名	評価対象の事務事業名			担当部	事務事業の担当部署名
	事業期間	事務事業の実施期間			担当課	
	実施・運営方法 ※費用合計に占める経費の内訳(割合)	直接実施・運営	事務事業の実施・運営方法の割合			
	目的 (対象をどのような状態にするのか)	事務事業の実施により、対象をどのような状態にしたいのか、どのような成果を得ようとしているのかが記載されています。				
	内容 (手段)	どのようなやり方で事業の目的を達成しようとしているのか、活動内容が記載されています。 ・24年度実施内容 24年度に実施した活動内容が記載されています。 ・直接経費の内訳 24年度の活動内容にかかった直接経費(事業の全経費から人事課所管の人件費を除いた経費)の主な内訳が記載されています。(決算額) ・直接経費の内訳 25年度の活動内容にかかる直接経費(事業の全経費から人事課所管の人件費を除いた経費)の主な内訳が記載されています。(予算額)				
	受益者負担	利用者の自己負担がある場合で、市の歳入に入る内容が記載されています。				

			単位	H22決算額	H23決算額	H24決算額	H25予算額	
コスト	費用	直接経費		千円	・事業を実施するうえで必要となる費用が記載されています。事業の「直接経費」(事業の全経費から人事課所管の人件費を除いた経費)、「人件費」(人事課所管分)、それらを合計した「費用合計」が記載されています。 ※正職員の人件費は、24年度の概算平均給与見込額(5,330千円)により算出し、全ての年度に適用。			
		正職員	従事者数	人				
			人件費	千円				
		その他職員	従事者数	人				
			人件費	千円				
		費用合計		千円				
	対前年比		%					
	財源	一般財源		千円	・事業を実施するための財源(一般財源、国・県支出金、その他)の内訳が記載されています。			
国・県支出金		千円						
その他財源		千円						

業 績	活動指標名	単位		H22	H23	H24	H25
	支給者数 (介護者手当)	人	目標	事業目的を達成するために実施した主な活動の目標値、実績値が記載されています。			
			実績				
	支給者数(徘徊高齢者家族支援)	人	目標				
			実績				
	支給者数 (介護用品支給)	人	目標				
			実績				
	成果指標名	単位		H22	H23	H24	H25
績	支給月数 (介護者手当)	月	目標	事業目的を達成するために実施した活動によって得られた主な成果の目標値、実績値が記載されています。			
			実績				
	支給月数 (介護用品支給)	月	目標				
			実績				

事業の自己評価	平成24年度の実施結果	事業の達成状況	目的達成のために実施した活動(活動指標)及び活動により得られた成果(成果指標)を基に、24年度時点での達成状況が記載されています。
		事業実施における課題	事業を実施する中で判明した課題、24年度時点での達成状況から考えられる課題等が記載されています。
		事業を縮小・廃止したときの影響	現在、実施している事業を縮小・廃止した場合に、市民生活や市の他の施策・事業に対して予想される影響が記載されています。
	改善内容	平成25年度の事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	24年度の達成状況をふまえた25年度の事業の改善・見直し内容が記載されています。
		平成26年度の事業の方向性	方向性の判定
	判定理由		担当部署が行った方向性の判定(自己評価)について、その判定理由が記載されています。
	26年度以降の改善案		今後(26年度以降)、目的達成のための改善案(特に上記「事業実施における課題等」に対する改善案)が記載されています。

その他	比較参考値(他自治体での類似事業の状況など)	近隣4市(春日井市、犬山市、江南市、岩倉市)において類似事業がある場合に、その実施状況が記載されています。
-----	------------------------	---

比較参考値（近隣４市との比較）

事業シートのその他欄（右頁下）には、比較参考値として、近隣４市（春日井市、犬山市、江南市、岩倉市）における類似事業の実施内容（手段）や受益者負担の状況等が記載されています。

ここでは参考として、本市と近隣４市の人口及び予算額をまとめてあります。

近隣４市の人口及び予算額一覧表

	人口(H25.4.1)		面積(km ²)	H25当初予算額	
	合計	うち外国人		全会計	うち一般会計
小牧市	153,170	7,165	62.82	1,103億6,615万円	507億8,700万円
春日井市	309,119	5,758	92.71	1,775億6,843万円	918億9,000万円
江南市	101,557	1,495	30.17	453億6,879万円	250億4,940万円
犬山市	75,388	1,704	74.97	397億3,027万円	223億2,015万円
岩倉市	47,658	2,204	10.49	236億2,901万円	134億8,000万円

○一般会計・・・市の基本的・普遍的な経費、例えば、福祉、教育、土木などに要する経費について、市税などを主な財源として経理する会計のこと。

○全会計・・・「一般会計」「特別会計」「企業会計」を合わせた会計のこと。

（特別会計・・・市が特定の事業を行う場合に、特定の歳入をもって特定の歳出に充て、一般会計の歳入歳出と区分してその経理を明確にするため法律や条例によって設置した会計のこと。

現在、小牧市には土地取得特別会計など10会計があります。）

（企業会計・・・市が独立採算制を原則とする企業的色彩の強い事業を行う際に法律や条例によって設置した会計をいいます。

現在、小牧市には病院事業と水道事業の2会計があります。）

判 定 シ ー ト

(氏名 :)

事業番号・事業名	
----------	--

※下記の判定区分の内、いずれか一つに○を記入してください

判定区分		判定区分の内容
	拡 大	対象の拡大や手段の充実等により、事業のボリュームを拡大すべきもの
	維 持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの
	縮 小	対象や手段の絞り込み等により、事業のボリュームを縮小すべきもの
	廃 止	事業を廃止すべきもの

※ 判定に至った理由及び事業実施における改善案を下記に記載してください。

判定理由 ・改善案	

事業番号	1
------	---

事業シート

事業の概要	事務事業名	家族等介護者支援事業				担当部	健康福祉部
						担当課	長寿介護課
	事業期間	平成12年度以前 ～ 平成30年度以降				担当係	長寿福祉係
	実施・運営方法 ※費用合計に占める 経費の内訳(割合)	直接実施・ 運営	95.8 %	委託	4.2 %	助成	0 %
	目的 (対象をどの様な 状態にするのか)	高齢者を介護している家族等の身体的、精神的及び経済的負担を軽減し、要介護高齢者等の在宅生活の継続や向上を図る。					
	内容 (手段)	◆24年度実施内容 ○ねたきり高齢者等介護者手当 ねたきり高齢者等の介護者に対して手当(月額5千円)を支給。決定、廃止、及び支給事務。 ○徘徊高齢者家族支援サービス事業 居場所を検索できる端末機器を貸与し、位置情報を提供する。決定、廃止、支払事務。 ○家族介護用品支給事業 介護用品を支給し介護にかかる経済的負担の軽減を図る。決定、廃止、毎月利用券発送、支払事務。 ○各種講座 家庭看護講座(年4回)、家族支援プログラム(年6回)、 認知症介護家族交流会(年12回) 広報掲載、申込受付、各種の通知 ◆24年度直接経費の内訳 ねたきり高齢者等介護者手当 18,730千円 徘徊高齢者家族支援サービス委託料 101千円 家族介護用品支給給付金 1,356千円 家庭看護講座委託料 851千円 その他印刷製本費等 152千円 ◆25年度直接経費の内訳 ねたきり高齢者等介護者手当 18,720千円 徘徊高齢者家族支援サービス委託料 140千円 家族介護用品支給給付金 1,584千円 家庭看護講座委託料 719千円 その他印刷製本費等 165千円					
受益者負担		無					

コスト			単位	H22決算額	H23決算額	H24決算額	H25予算額	
	費用	直接経費		千円	19,719	21,130	21,190	21,328
		正職員	従事者数	人	0.30	0.30	0.30	0.30
			人件費	千円	1,599	1,599	1,599	1,599
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
		費用合計		千円	21,318	22,729	22,789	22,927
	対前年比		%		106.6	100.2	100.6	
	財源	一般財源		千円	21,318	22,729	22,789	22,927
		国・県支出金		千円	0	0	0	0
		その他財源		千円	0	0	0	0

業 績	活動指標名	単位		H22	H23	H24	H25
	支給者数 (介護者手当)	人	目標	394	409	420	420
			実績	390	401	409	
	支給者数(徘徊高齢者 家族支援)	人	目標	18	18	18	18
			実績	12	13	13	
	支給者数 (介護用品支給)	人	目標	21	21	21	21
			実績	13	17	20	
	成果指標名	単位		H22	H23	H24	H25
	支給月数 (介護者手当)	月	目標	3,637	3,733	3,840	3,744
			実績	3,556	3,768	3,746	
	支給月数 (介護用品支給)	月	目標	121	151	205	231
			実績	144	205	231	

事業の自己評価

平成24年度の実施結果	事業の達成状況	支給者数は目標値を下回ったが、高齢者を介護をしている家族等の身体的、精神的及び経済的負担を軽減し、要介護高齢者等の在宅生活の継続や向上について概ね達成ができた。		
	事業実施における課題	ねたきり高齢者等介護者手当ては、民生委員を通じて申請がある事業であるが、被介護者の条件が曖昧であるため、民生委員が混乱をしていた。		
	事業を縮小・廃止したときの影響	今後、認知症高齢者は増加すると見込まれるが、介護者に対する生活支援がなくなり、要介護高齢者等の在宅生活の継続や向上が困難となる。		
平成25年度の改善内容	25年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	ねたきり高齢者等介護者手当ての被介護者の条件の見直しを行い、明確に変更するとともに、今まで受給対象としていなかった若年性認知症の方を対象に加えた。		
平成26年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)	
	判定理由	今後の高齢社会において、住み慣れた地域社会の中で引き続き生活することを支援するために現状維持と判断した。		
	26年度以降の改善案	引き続き地域で生活する為の支援を行っていく。		

その他	比較参考値 (他自治体での類似事業の状況など)	(別紙)
-----	----------------------------	------

家族等介護者支援事業 比較参考値（近隣市実施状況）

◆ねたきり等介護者手当の実施状況

小牧市	月額 5,000 円 65 歳以上で、3 か月以上ねたきりや認知症状態にある方、又は、18 歳以上 65 歳未満で、3 か月以上ねたきり状態にある重度の身体障がい者を常時介護している方を対象 ※25 年度より 3 ヶ月以上施設に入所している方を対象外とし、新たに 40 歳以上 65 歳未満の若年性認知症の方を対象に加えた。
春日井市	H22 年度末で事業終了
犬山市	月額 5,000 円 65 歳以上で、ねたきりや認知症状態の方を 3 ヶ月以上在宅で常時介護している方を対象
江南市	月額 2,000 円 65 歳以上で、要介護認定 3 以上の高齢者を同居において介護している家族（要支援 2 以下）の方を対象
岩倉市	月額 5,000 円 65 歳以上又は 20 歳以上 65 歳未満の心身に障がいのある方で常時ねたきり、認知症の状態が 3 ヶ月以上在宅で常時介護している方を対象

◆徘徊高齢者家族支援サービスの実施状況

小牧市	サービス事業実施あり（新規加入料及び月額基本料を市が負担）
春日井市	サービス事業実施あり（新規加入料及び月額基本料を市が負担）
犬山市	サービス事業実施あり（新規加入料及び位置探知料を市が負担）
江南市	サービス事業実施あり（月額基本料を市が負担）
岩倉市	サービス事業実施あり（新規加入料及び付属品を市が負担）

◆家族介護用品支給事業の実施状況

小牧市	サービス事業実施あり（介護用品を購入できる利用券配布。月額 6,000 円、12 ヶ月）
春日井市	サービス事業実施なし
犬山市	サービス事業実施あり（月額 8,300 円以内、12 ヶ月）
江南市	サービス事業実施あり（おむつのみの助成券配布。月額 2,500 円、2 回／年）
岩倉市	サービス事業実施あり（紙おむつのみの助成券配布。月額 6,250 円、12 ヶ月）

◆各種講座等の実施状況

小牧市	家庭看護講座（4 回／年）、認知症介護家族支援プログラム（6 回／年）、認知症介護家族交流会（12 回／年）→平成 25 年度より地域包括支援センターの事業において実施。
春日井市	家族介護のための講座（9 回／年）、家族介護者交流事業（3 回）
犬山市	認知症介護家族交流会（6 回／年（昨年） → 12 回／年（25 年度より）に変更講座の開催はなし。
江南市	家族介護教室、認知症家族会の開催を包括支援センターに委託している。
岩倉市	各種講座類の開催なし。フォーラムやシンポジウム等を年 1 回開催している。

事業番号1



●事業名：家族等介護者支援事業

●担当部課：長寿介護課

1

家族等介護者支援事業

ねたきり高齢者等介護者手当

徘徊高齢者家族支援サービス事業

家族介護用品支給事業

各種講座

- ・家庭看護講座
- ・家族支援プログラム
- ・認知症介護家族交流会

2

●事業期間(事業開始の経緯と現状)

・ねたきり高齢者等介護者手当

S59. 4. 1～ 事業開始

H 2. 4. 1～ 認知症老人にも対象を拡大

H25. 4. 1～ 施設入所者及び3ヶ月以上の入院者を
対象外

若年性認知症にも対象を拡大



ねたきり高齢者及び認知症高齢者等を介護している家族
に介護者手当を支給している。

3

●事業期間(事業開始の経緯と現状)

・徘徊高齢者家族支援サービス事業

H17. 4. 1～ 事業開始

認知症等の高齢者が徘徊して行方不明と
なった場合に、家族介護者に対してGPSを
利用した位置情報を提供し、当該高齢者を
早期に発見することを支援するために開始。



委託業者を通じ、利用希望の家族介護者にGPS端末機
器の貸し出しをし、24時間・365日体制でオペレーションセ
ンターから情報提供をしている。



4

●事業期間(事業開始の経緯と現状)

・家族介護用品支給事業

H15. 4. 1～ 事業開始

在宅の要介護者を常時介護している家族介護者の経済的負担の軽減及び要介護者の在宅生活の継続ができるよう事業が新設。



介護を必要とする要介護者である方で、経済的にも支援を必要とする方が利用をしている。

5

●事業期間(事業開始の経緯と現状)

・各種講座

・家庭看護講座 S60. 5. 1～

・家族支援プログラム H18. 8. 9～

・認知症介護家族交流会 H22. 4. 1～(H25年度より包括支援センターでの実施に変更)

ねたきり高齢者等の家庭介護者が介護や認知症に関する知識を修得し、正しい介護知識・技能を学習する機会を提供。また参加者相互の交流を図り、介護負担の軽減を図る。



参加者の知識の習得、相互交流。介護によるストレスの軽減。

6

●目的(対象をどのような状態にするのか)

- ・高齢者を介護している家族等の身体的及び経済的負担を軽減
- ・要介護者等の在宅生活の継続や向上

7

●内容(手段)①

◆平成24年度実施内容

・ねたきり高齢者等介護者手当

対象:65歳以上で、3か月以上ねたきりや認知症状態にある方、又は、18歳以上で、3か月以上ねたきり状態にある重度の身体障がい者を常時介護している方

内容:介護者に対して月額5,000円を支給

・徘徊高齢者家族支援サービス事業

対象:介護保険要介護(要支援)認定の方(第2号被保険者を含む。)及び準ずる方。※施設等入所者を除く。

内容:位置情報を利用し、徘徊した高齢者の居場所を確認できる端末機器の貸出し



・家族介護用品支給事業

対象:介護保険要介護認定4または5の方を介護している市民税非課税世帯に属する方、または介護保険要介護認定4または5の方で介護者のいない在宅のひとり暮らしの市民税非課税の方(生活保護世帯に属する方を除く。)

内容:介護用品を購入できる利用券を月12枚(月額6,000円分)支給

8

●内容(手段)①

・各種講座

・家庭看護講座(4回／年)

対象: ねたきりや認知症高齢者を介護している方、または、介護に興味のある方

内容: ねたきり高齢者等の家庭介護者の効果的で効率的な介護知識を修得
正しい介護知識・技能を学習する機会の提供
参加者相互の交流

・認知症介護家族支援プログラム(6回／年)

対象: 認知症の高齢者を介護している方

内容: 認知症に関する基礎的な知識の習得、必要な講義及び教室を実施

・認知症介護家族交流会(12回／年)

対象: 認知症の高齢者を介護している方

内容: 家族介護者相互の交流会、認知症に関する知識の習得、
必要な講義及び教室を実施

9

●内容(手段)②

◆平成24年度の経費の内訳 (21,190千円)

ねたきり高齢者等介護者手当	18,730千円
徘徊高齢者家族支援サービス委託料	101千円
家族介護用品支給給付金	1,356千円
家庭看護講座委託	851千円
その他印刷製本費等	152千円

◆平成25年度の経費の内訳 (21,328千円)

ねたきり高齢者等介護者手当	18,720千円
徘徊高齢者家族支援サービス委託料	140千円
家族介護用品支給給付金	1,584千円
家庭看護講座委託料	719千円
その他印刷製本費等	165千円

●受益者負担

無し

10

●費用合計

H24年度 22, 789千円 H25年度 22, 927千円

●財源

H24年度	一般財源	22, 789千円
	国・県支出金	0千円
	その他	0千円
H25年度	一般財源	22, 927千円
	国・県支出金	0千円
	その他	0千円

11

●活動指標(事業の「内容(手段)」の実施量)

◆指標名:介護者手当支給者数

H24 目標:420人 実績:409人

H25 目標:420人

◆指標名:徘徊高齢者支給者数

H24 目標: 18人 実績: 13人

H25 目標: 18人

◆指標名:介護用品支給者数

H24 目標: 21人 実績: 20人

H25 目標: 21人

12

●成果指標(事業の「目的」の達成度)

◆指標名:介護者手当支給月数

H24 目標:3,840月 実績:3,746月

H25 目標:3,744月

◆指標名:介護用品支給月数

H24 目標: 205月 実績: 231月

H25 目標: 231月

13

●事業の達成状況

支給者数は目標値を下回ったが、高齢者を介護をしている家族等の身体的、精神的及び経済的負担を軽減し、要介護高齢者等の在宅生活の継続や向上について概ね達成ができた。

●事業実施における課題等

ねたきり高齢者等介護者手当は、民生委員を通じて申請がある事業であるが、被介護者の条件が曖昧であるため、民生委員が混乱をしていた。

14

●事業を縮小・廃止したときの影響

今後、認知症高齢者は増加すると見込まれるが、介護者に対する生活支援が無くなり、要介護高齢者等の在宅生活の継続や向上が困難となる。

●25年度における事業の改善・見直し内容 (新規追加事項、廃止・削減事項等)

ねたきり高齢者等介護者手当の被介護者の条件の見直しを行い、明確に変更するとともに、今まで受給対象としていなかった若年性認知症の方を対象に加えた。

15

●方向性の判定

現状維持

●判定理由

今後の高齢社会において、住みなれた地域の中で引き続き生活することを支援するために、現状維持と判断した。

●26年度以降の改善案

引き続き地域で生活するための支援を行っていく。

16

●比較参考値(他自治体での類似事業の状況など)

◆ねたきり等介護者手当の受給対象及び交付額

春日井市

H22年度末で事業終了

犬山市 月額5,000円

65歳以上で、ねたきりや認知症状態の方を3ヶ月以上在宅で常時介護している方

江南市 月額2,000円

65歳以上で、要介護認定3以上の高齢者を同居において介護している家族(要支援2以下)の方

岩倉市 月額5,000円

65歳以上又は20歳以上65歳未満の心身に障がいのある方で常時ねたきり、認知症の状態が3ヶ月以上在宅で常時介護している方

17

●比較参考値(他自治体での類似事業の状況など)

◆徘徊高齢者家族支援サービスの実施状況

春日井市

サービス事業実施あり(新規加入料及び月額基本料を市が負担)

犬山市

サービス事業実施あり(新規加入料及び位置探知料を市が負担)

江南市

サービス事業実施あり(月額基本料を市が負担)

岩倉市

サービス事業実施あり(新規加入料及び附属品を市が負担)

18

●比較参考値(他自治体での類似事業の状況など)

◆家族介護用品支給事業の実施状況

春日井市

サービス事業実施なし

犬山市

サービス事業実施あり(月額8,300円以内、12ヶ月)

江南市

サービス事業実施あり(おむつのみの助成券配布。
月額2,500円、2回/年)

岩倉市

サービス事業実施あり(紙おむつのみの助成券配布。
月額6,250円、12ヶ月)

19

●比較参考値(他自治体での類似事業の状況など)

◆各種講座等の実施状況

春日井市

家庭介護のための講座(9回/年)
家族介護者交流事業(3回)

犬山市

認知症介護家族交流会(6回/年(昨年)→12回/年(25年度より)に変更)、講座の開催はなし。

江南市

家族介護教室、認知症家族会を包括支援センターに委託している。

岩倉市

各種講座類の開催なし。フォーラムやシンポジウム等を年1回開催している。

20

平成25年度外部評価 事業シート

事業の概要	事務事業名	壮年期等保健事業				担当部	健康福祉部
						担当課	保健センター
	事業期間	平成12年度以前 ～ 平成30年度以降				担当係	成人保健係
	実施・運営方法 ※費用合計に占める経費の内訳(割合)	直接実施・運営	70.0 %	委託	30.0 %	助成	0 %
	目的 (対象をどの様な状態にするのか)	概ね40歳以上の市民を対象として、主体的に体や心の健康づくりに取り組めるようにし、介護を要する状態に陥ることなく健康で生き生きとした生活が送れるよう支援する。					
	内容 (手段)	◆24年度実施内容 健康教育事業(健康教室、地区健康教育の実施) 健康相談事業(定例健康相談、医師健康相談、予防相談、老人健康相談の実施) 機能訓練事業(パークアリーナ小牧で実施する筋力アップトレーニング) 訪問指導事業(疾病や要介護予防が必要な人に対する訪問指導の実施) を実施した。なお、事業については医師健康相談及び老人健康相談を除き、主に正職員で対応した。 いきいき世代の歯科健診事業は、40歳、50歳、60歳、70歳を対象に歯科医院に委託し、歯科健診を実施した。 ◆24年度直接経費の内訳 健康まつり開催委託料 4,090千円 老人健康相談事業委託料 2,253千円 成人歯科健診事業委託料 964千円 いきいき世代個別歯科健診事業委託料 3,130千円 謝礼、需用費等 5,696千円 ◆25年度実施内容 ・健康日本21こまき計画の評価として市民アンケート調査を実施。その結果をもとに、計画の進捗状況を確認、見直しをして、次期計画の策定に反映させる。 ・年1回市民を対象に市民会館で実施していた「健康まつり」を廃止し、市内6地区で「地区健康展」として実施する。自分の住む身近な場所で、自分の身体に関心を持ち、健康維持をしてもらうための健康確認、情報の提供等の場とする。 ◆25年度直接経費の内訳 老人健康相談事業委託料 2,300千円 成人歯科健診事業委託料 964千円 いきいき世代個別歯科健診事業委託料 6,500千円 健康日本21こまき計画策定委託料 3,000千円 謝礼、需用費等 7,850千円 ◆その他の財源の内訳 平成24年度までは、「健康まつり事業負担金」として国保より420千円繰り入れがあったが、平成25年度の体制の変更に伴い、名称を変更し「健康展事業負担金」として420千円繰り入れ。					
	受益者負担	無					

コスト			単位	H22決算額	H23決算額	H24決算額	H25予算額	
	費用	直接経費		千円	10,933	15,489	16,136	20,614
		正職員	従事者数	人	3.50	3.50	3.50	3.50
			人件費	千円	18,655	18,655	18,655	18,655
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
		費用合計		千円	29,588	34,144	34,791	39,269
	対前年比		%		115.3	101.8	112.8	
	財源	一般財源		千円	28,448	32,172	32,649	35,658
		国・県支出金		千円	720	1,552	1,722	3,191
その他財源		千円	420	420	420	420		

業 績	活動指標名	単位		H22	H23	H24	H25
	健康教育実施数	回	目標	251	273	300	300
			実績	295	295	287	
	健康相談実施数	回	目標	238	247	252	260
			実績	239	260	252	
	いきいき世代個別歯科 健診受診率 (H23年度開始)	%	目標	－	15.0	15.0	15.0
			実績	－	7.7	7.4	
	成果指標名	単位		H22	H23	H24	H25
	健康づくりに日頃から 気をつけている市民の 割合	%	目標	78	79	80	80
			実績	74.1	71.9	74.5	
介護保険2号被保険者 (40歳～64歳)の「要支 援1」の認定者の割合	%	目標	0.030	0.040	0.033		
		実績	0.040	0.033	0.029		

事業の自己評価	平成24年度の実施結果	事業の達成状況	(1)健康教育実施回数は、保健センター企画と住民が主体的に健康について学ぶ機会を計画し依頼があった回数之和であるが、地区からの依頼回数が減少しており目標を達成できていない。成果指標にあげた「健康づくりに気をつけている市民の割合」を見ても増減はあるも横ばいとなっており、目標に近づいていない。 (2)健康相談実施数は、24年度は目標回数を実施した。 (3)15%の受診率を目標に23年度から開始したいいきいき世代個別歯科健診は、23年度7.7%、24年度7.4%であった。 (4)介護保険2号被保険者(40歳～64歳)の「要支援1」の認定者の割合は減少傾向にある。	
		事業実施における課題	壮年期世代が自分の健康について関心を持ち、自主的に健康づくりや介護予防に取り組めるよう動機付けに力を入れ、より一層保健連絡員と連携し、健康づくりや介護予防に関する取り組みが継続できるようにする必要がある。	
		事業を縮小・廃止したときの影響	市民の健康寿命の延伸や疾病予防に影響	
	平成25年度の改善内容	25年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	(1)住民が主体的に健康づくりに取り組む事業として、行政主体で年1回実施していた健康まつりを住民主体で自分が住む身近な場所6地区での開催とした。 (2)いきいき世代歯科健診受診率向上に向けて、医療機関、歯科医療機関、市内関係機関等において周知ポスターを掲示し、受診率の向上を図った。 (3)糖尿病と歯周病との関係について着目し、糖尿病の重症化予防対策として医療機関及び歯科医療機関に対し糖尿病連携手帳を配布し関係機関において糖尿病患者の身体状況の共有化を図った。	
	平成26年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)
		判定理由	健康増進法により自治体を実施すべき事業である。 また、超高齢化社会を控え、医療費や要介護認定者の増加を防ぐためにも必要な事業。	
		26年度以降の改善案	今年度、健康日本21にまき計画の評価を実施。その結果を平成26年度策定する第2次計画に反映し、市民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組めるよう、地域・関係機関と連携し、積極的に支援していく。	

その他	比較参考値 (他自治体での類似事業の状況など)	(別紙)
-----	----------------------------	------

壮年期等保健事業 比較参考値（近隣市実施状況）

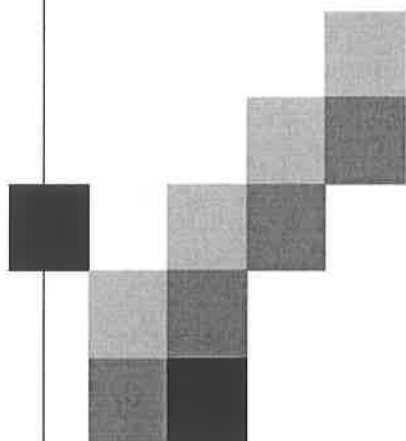
◆歯科健診事業

	実施方法	対象	自己負担金
小牧市	1) 集団 2) 個別 3) 個別	1) 20歳以上 2) 40・50・60・70歳 3) 35歳	1) 無料 2) 無料 3) 無料
春日井市	1) 集団 2) 個別 3) 個別	1) 18歳以上 2) 40・50・60・70歳 3) 65歳	1) 無料 2) 無料 3) 無料
犬山市	1) 個別 2) 個別	1) 40・50・60・70歳 2) 40～74歳	1) 300円 2) 300円
江南市	1) 個別 2) 個別	1) 40・50・60・70歳 2) 45・55・65・75歳	1) 無料 2) 無料
岩倉市	1) 集団 2) 集団 3) 個別	1) 30歳以上 2) 65歳 3) 40～74歳	1) 無料 2) 無料 3) 無料

◆健康教育事業、健康相談事業、訪問事業

いずれも市民からのアプローチにより実施する事業であるため、他の市町村との比較は難しい。しかしながら、どの事業も市民の健康を守るためには必要不可欠であり、近隣のみならず、県下どの市町村でも実施している事業である。

事業番号2



- 事業名： 壮年期等保健事業
- 担当部課：健康福祉部保健センター

1

●事業期間(事業開始の経緯と現状)

老人保健法： 昭和58年～平成19年

国民の健やかな長寿を確保するために疾病の予防や健康づくりのための施策を総合的にすすめる。



新しい法律に移行

健康増進法： 平成20年～

市町村は、住民の健康の増進を図るため、栄養の改善その他の生活習慣の改善に関する事業(相談、保健指導等)を行うものとする。

現在、健康増進法に基づく事業の1つとして「壮年期等保健事業」を実施している。

2

●目的(対象をどのような状態にするのか)

- ・対象 概ね40歳以上の市民
- ・目的
 - 1 主体的に体や心の健康づくりに取りに取り組むことができる。
 - 2 介護を要する状態に陥ることなく、健康で生き生きとした生活を送ることができる。



健康増進事業実施要領に基づいて実施

3

●内容

壮年期等保健事業

1)健康教育事業

(H24実績)年間287回実施
参加者数6,862人

2)健康相談事業

(H24実績)年間252回実施
参加者数954人

3)機能訓練事業

(H24実績)年間24回実施
延参加者数302人

4)訪問指導事業

(H24実績)年間24回実施
訪問実人数19人
訪問延人数46人

5)歯科健診事業

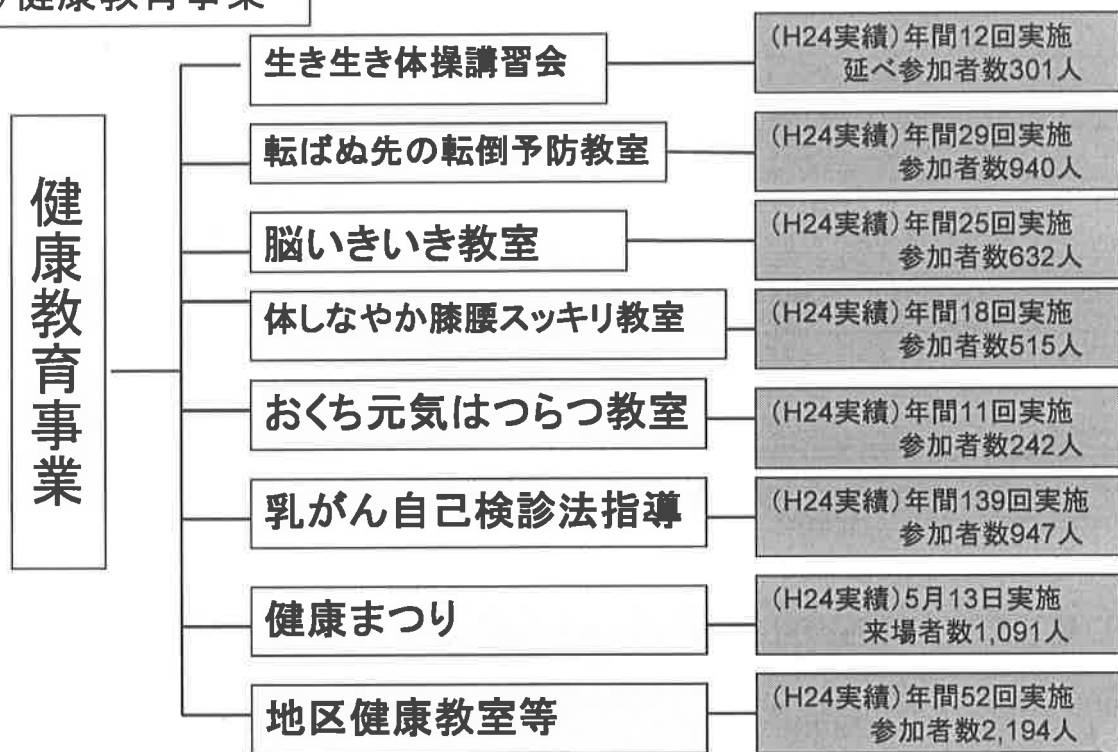
(H24実績)集団→年間12回実施
受診者数406人
個別→受診者数626人

壮年期等保健事業は、「健康増進事業実施要領 第2 健康増進法第17条第1項に基づく健康増進事業 及び 第3 健康増進法第19条の2に基づく健康増進事業」に掲げられる事業を基に実施。

4

平成24年度各事業実施状況

1) 健康教育事業



5

1) 健康教育事業

生き生き体操講習会参加者(30名)の状況 (アンケート有効回答者数24人)

①受診後の変化について(重複回答あり)

項 目	割 合
体調が良くなった	16. 7%
気分が明るくなった	25. 0%
身体を動かすようになった	54. 2%
知り合いや運動仲間が増えた	12. 5%
教室以外でも運動するようになった	25. 0%
健康について考えるようになった	45. 8%

②その他の意見(アンケートより一部抜粋)

- ・体調を考えるようになった。 ・大変楽しかった。
- ・楽しく教室に参加できた。友達も出来、参加するのが待ち遠しかった。
- ・体調を崩し参加できない回があり、とても残念だった。参加してよかった。
- ・運動をする良いきっかけになった。 ・楽しい時間が過ごせた
- ・意識して家の中でも心がけて少しでも動くようになった。

6

●内容

壮年期等保健事業

1) 健康教育事業

(H24実績) 年間287回実施
参加者数6,862人

2) 健康相談事業

(H24実績) 年間252回実施
参加者数954人

3) 機能訓練事業

(H24実績) 年間24回実施
延参加者数302人

4) 訪問指導事業

(H24実績) 年間24回実施
訪問実人数19人
訪問延人数46人

5) 歯科健診事業

(H24実績) 集団→年間12回実施
受診者数406人
個別→受診者数626人

壮年期等保健事業は、「健康増進事業実施要領 第2 健康増進法第17条第1項に基づく健康増進事業 及び 第3 健康増進法第19条の2に基づく健康増進事業」に掲げられる事業を基に実施。

7

2) 健康相談事業

健康相談事業

市民健康相談

医師健康相談

(H24実績) 年間94回実施
延べ参加者数111人

保健師健康相談

(H24実績) 年間67回実施
参加者数488人

生活習慣病予防相談

(H24実績) 年間44回実施
参加者数63人

老人健康相談

(H24実績) 年間47回実施
参加者数292人

8

2) 健康相談事業

(H24) 生活習慣病予防相談参加者の状況

◆総参加者数 63人(うち、2回以上利用した者8人)

①相談来所のきっかけ(複数回答あり)

健康診断を受けて	他の事業からの紹介	広報・チラシ	以前からの継続
15人	29人	2人	26人

②参加者の変化

- ・体重減少がみられた→1人
- ・生活リズムの改善→2人
- ・血液検査の結果の改善がみられた→3人
- ・特に変化なし→57人(相談記録より下記のような変化あり)
 - ◇運動が継続できるようになった
 - ◇油分の取りすぎに気をつけている
 - ◇カルシウム分を意識してとるようになった
 - ◇野菜の摂取量が増えた
 - ◇効果的に食事がとれるようになった

9

●内容

壮年期等保健事業

1) 健康教育事業

(H24実績) 年間287回実施
参加者数6,862人

2) 健康相談事業

(H24実績) 年間252回実施
参加者数954人

3) 機能訓練事業

(H24実績) 年間24回実施
延参加者数302人

4) 訪問指導事業

(H24実績) 年間24回実施
訪問実人数19人
訪問延人数46人

5) 歯科健診事業

(H24実績) 集団→年間12回実施
受診者数406人
個別→受診者数626人

壮年期等保健事業は、「健康増進事業実施要領 第2 健康増進法第17条第1項に基づく健康増進事業 及び 第3 健康増進法第19条の2に基づく健康増進事業」に掲げられる事業を基に実施。

10

3) 機能訓練事業

■ めざせ若返り教室

① 対象

介護保険により要介護または要支援いずれも非該当であり膝痛や腰痛等何らかの症状がある方

② 実施状況

- ・内容: 筋力アップトレーニング
- ・フロアトレーニング編12回: 17人参加(延べ176人)
- ・マシントレーニング編12回: 12人参加(延べ126人)

3) 機能訓練事業

■ めざせ若返り教室

③ 参加者の状況(教室前後に実施したアンケート調査より)

何らかの症状に改善がみられた方→17名(58.6%)

・自覚症状の変化

○膝の痛み	13人→12人	1人改善
○腰の痛み	18人→11人	7人改善
○背中が丸くなった	6人→ 2人	4人改善
○疲れやすい	10人→ 5人	5人改善
○肩こり	13人→13人	
○股関節が痛い	4人→ 5人	1人増加
○つまづきやすい	4人→ 5人	1人増加

3) 機能訓練事業

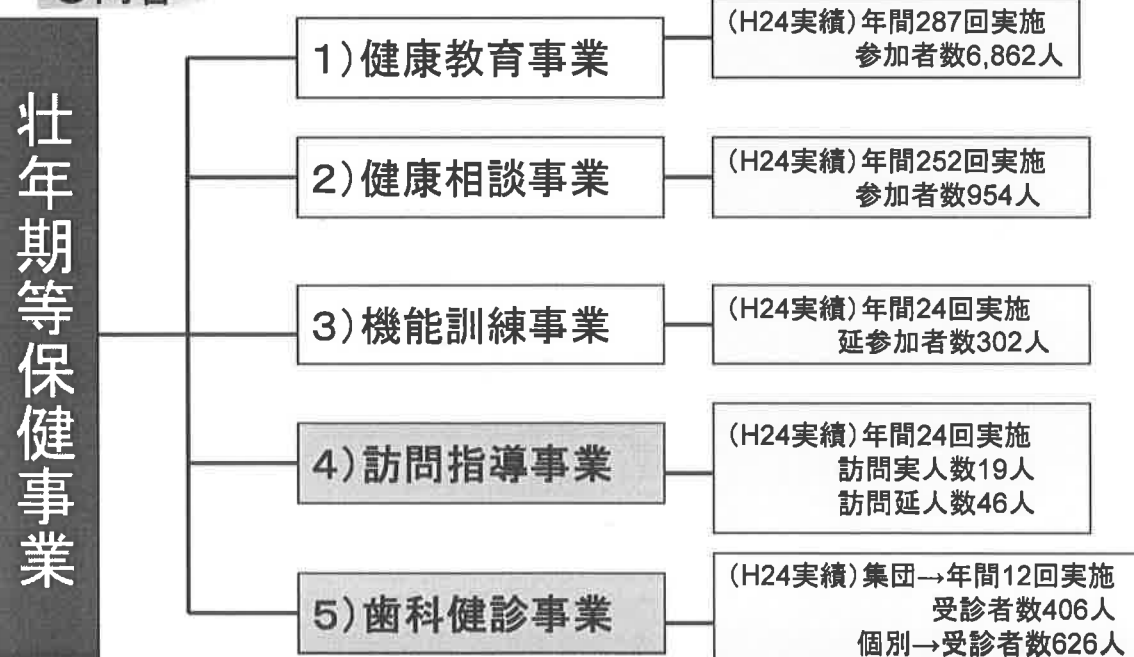
めざせ若返り教室(参加者の感想)

◆実施後のアンケートより一部抜粋

- ・この教室がきっかけでウォーキングを続けています。運動を常に意識するようになった。
- ・実際にジムでプログラムを組んでもらいトレーニングができたので安心して運動ができました。
- ・この教室で出会った仲間と教室後も継続してジムに通おうと思っています。
- ・何でも運動すれば良いと思っていたが、運動にもバランスが大事でストレッチ、有酸素運動、筋トレを行って体が変わってくることを学びました。
- ・時間がある時にこまめに歩くようにしています。
- ・階段など日常生活の中でなるべく動くようにしています。

13

●内容



壮年期等保健事業は、「健康増進事業実施要領 第2 健康増進法第17条第1項に基づく健康増進事業 及び 第3 健康増進法第19条の2に基づく健康増進事業」に掲げられる事業を基に実施。

14

4) 訪問指導事業

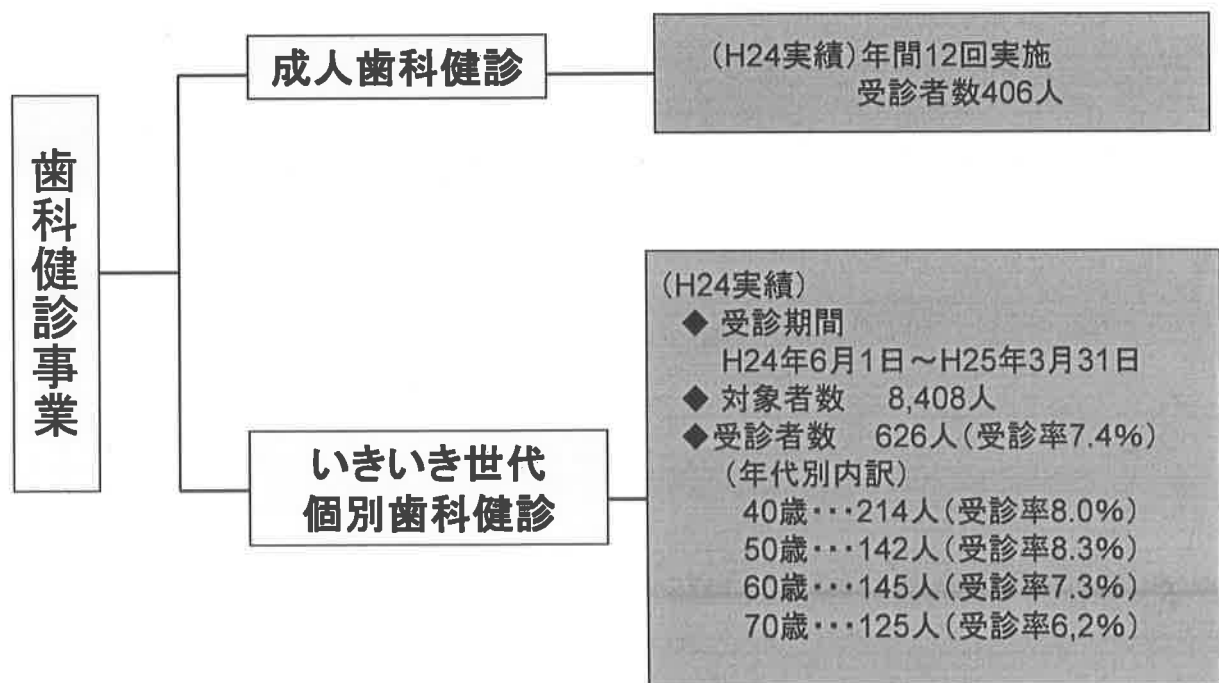
- ①対象
- ・実際の生活の様子を把握し、生活習慣の改善に向けた工夫を必要としている方
 - ・精神的支援を必要としている方

②訪問実数 19人(延べ人数 46人)

- ③対象者の把握方法
- ・福祉関係より
 - ・本人、家族より
 - ・保健連絡員、ボランティアより

15

5) 歯科健診事業



16

●費用内訳

◆平成24年度の経費の内訳

・老人健康相談事業委託料	2,253千円
・成人歯科健診事業委託料	964千円
・いきいき世代個別歯科健診委託料	3,130千円
・健康まつり開催委託料	4,090千円
・需用費(印刷製本等)通信運搬費等	5,699千円

◆平成25年度予算の経費の内訳

・老人健康相談事業委託料	2,300千円
・成人歯科健診事業委託料	964千円
・いきいき世代個別歯科健診委託料	6,500千円
・健康日本21こまき計画策定委託料	3,000千円
・需用費(印刷製本等)通信運搬費等	7,850千円

17

●受益者負担

各事業とも、受益者負担は無

18

●費用合計

H24年度 34,791千円 H25年度予算 39,269千円

●財源

	平成24年度	平成25年度(予算)
一般財源	32,649千円	35,658千円
県支出金	1,722千円	3,191千円
その他の財源	420千円	420千円

19

●事業の達成状況(活動指標)①

		22年度	23年度	24年度
健康教育実施数 (回)	目標	251	273	300
	実績	295	295	286

保健センター
企画の回数

+

住民が主体的に
健康について学ぶ
機会の企画回数

=

健康教育実施数

地区住民からの依頼が減少傾向

20

●事業の達成状況(活動指標)②

		22年度	23年度	24年度
健康相談実施数 (回)	目標	238	247	252
	実績	239	260	252

- ・相談個人の生活習慣の見直しに向けて支援。
- ・誰でも気軽に相談できる場として、定例の健康相談等を目標回数実施できた。

21

●事業の達成状況(活動指標)③

【いきいき世代個別歯科健診目標: 受診率15%】

	23年度			24年度		
	対象者数	受診者数	受診率	対象者数	受診者数	受診率
40歳	2,486	190	7.6%	2,681	214	8.0%
50歳	1,623	98	6.0%	1,716	142	8.3%
60歳	2,156	167	7.7%	1,991	145	7.3%
70歳	1,786	168	9.4%	2,020	125	6.2%
合計	8,051	623	7.7%	8,408	626	7.4%

22

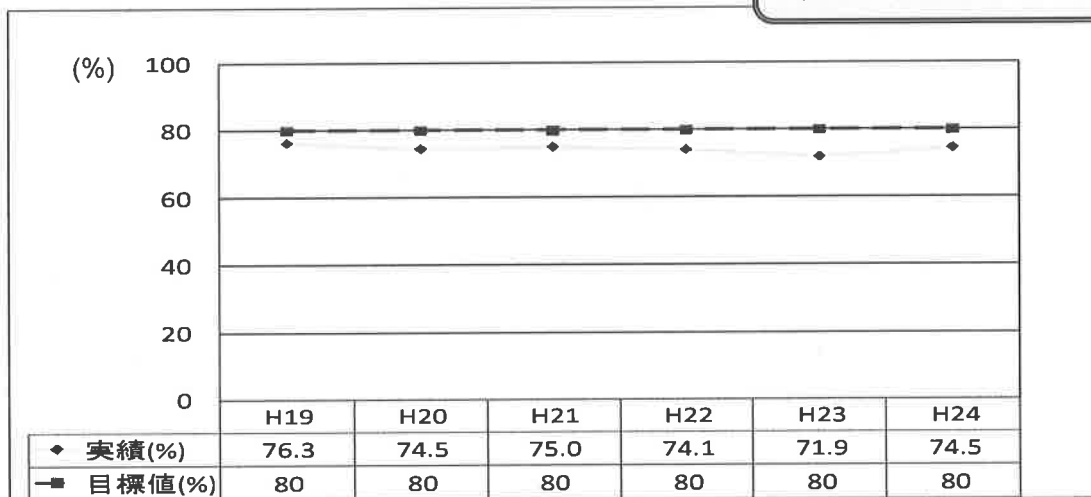
●事業の達成状況(成果指標①)

目的:主体的に体や心の健康づくりに取り組むことができる

健康づくりに目頃から気をつけている市民の割合

(平成25年4月～5月実施「市民意識調査」より)

増減はあるも概ね
横ばいで推移している



23

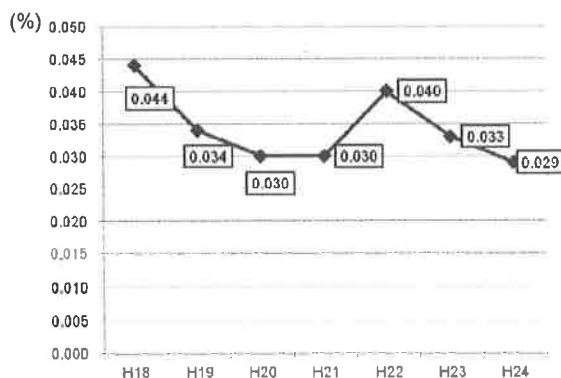
●事業の達成状況(成果指標②)

目的:介護を要する状態に陥ることなく、健康で生き生きとした生活を送ることができる。

介護保険2号被保険者(40歳～64歳)の 「要支援1」の認定者の割合

22年度に一旦上昇したが
23、24年度と減少

年度	①40～64歳 人口(人)	②要支援1 認定者数 (人)	割合(%) ②÷①
18	50,067	22	0.044%
19	50,054	17	0.034%
20	50,182	15	0.030%
21	50,121	15	0.030%
22	50,337	20	0.040%
23	51,049	17	0.033%
24	51,227	15	0.029%



24

●事業実施における課題等

- 自分の住む地区の健康に関心を持ち活動する保健連絡員との連携のパイプをより一層強くして、地域の特性に着目した健康づくりにつながるような支援が必要。
- 仕事や家庭で忙しい青年期・壮年期世代に対し、自分の身体と心の健康に関心を持ち、自主的に健康づくりや介護予防に取り組むことができるような方策の検討が必要。

25

●事業を縮小したときの影響

事業の目的

主体的に体や心の健康づくりに取りに取り組めるようにし、介護を要する状態に陥ることなく健康で生き生きとした生活が送れるよう支援する。



要介護状態になることの予防や、年齢・体力に合わせた健康づくりの支援など、健康寿命の延伸に向け、いくつになっても質の高い生活が継続できるよう、生活面に着目したサービスの提供が必要。



事業を縮小したら

◆市民の健康寿命の延伸や疾病予防に影響

26

●25年度における事業の改善・見直し内容
(新規追加事項、削減事項等)

1)健康まつり事業

→行政主体から地域主体のまつりへ

2)いきいき世代個別歯科健診事業

→受診率の向上に向けポスター掲示

3)糖尿病の重症化予防対策に関する取組み

→医師会歯科医師会の協力のもと、糖尿病
と歯周病の相互関係に着目した支援

27

●行政主体から地域主体のまつりへ



◆地区健康展開催時の様子…自身の健康を振り返る機会として、様々な機材を使用し、健康チェックを実施。

28

「健康まつり」と「地区健康展」の比較

	健康まつり (中央開催)	地区健康展 (6地区に分けて開催)
実施主体	行政	地域
開催方法	合同展として、介護展、福祉展と同時開催。開催時期・内容などは、行政が主体となり決定。	地域(保健連絡員)と相談し、開催時期・内容などを決定。
メリット	1)他の催事(福祉展・介護展)の参加目的である市民の相乗効果が得られやすい。 2)市の中で大きな会場での開催となり、収容人数をさほど気にしなくても良い。	1)高齢者の多い地域、子育て世代の多い地域など地域の特性に合わせた内容を開催することができる。 2)より近くの会場で実施することで広い世代の参加が得やすくなる。また、各地域の保健連絡員が中心となって企画、開催するため、地域の方々に対して参加勧奨しやすい。
デメリット	・会場設営に費用がかかる。 ・遠隔地からの参加が得られにくい。 ・市外からの参加者あり。	・1つ1つの会場の収容人数が中央開催より少ない。

29

●方向性の判定

維持

●判定理由

- 本事業は健康増進法に基づき県下どの市町村でも実施している事業であり、市民の健康を守る為には必要不可欠な事業である。
- また、超高齢化社会を控え、医療費や要介護認定者の増加を防ぐためにも必要な事業である。
- しかし、事業の手段については、適宜見直しや工夫が必要である。

30

●26年度以降の改善案

- 今年度、健康日本21こまき計画の評価を実施。その結果を平成26年度策定する第2次計画に反映し、市民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組めるよう、地域・関係機関と連携し、積極的に支援していく。

31

●比較参考値例(他自治体での類似事業の状況)①

○歯科健診事業

	実施方法	対象	自己負担金
小牧市	1) 集団 2) 個別 3) 個別	1) 20歳以上 2) 40・50・60・70歳 3) 35歳	1) 無料 2) 無料 3) 無料
春日井市	1) 集団 2) 個別 3) 個別	1) 18歳以上 2) 40・50・60・70歳 3) 65歳	1) 無料 2) 無料 3) 無料
犬山市	1) 個別 2) 個別	1) 40・50・60・70歳 2) 40～74歳	1) 300円 2) 300円
江南市	1) 個別 2) 個別	1) 40・50・60・70歳 2) 45・55・65・75歳	1) 無料 2) 無料
岩倉市	1) 集団 2) 集団 3) 個別	1) 30歳以上 2) 65歳 3) 40～74歳	1) 無料 2) 無料 3) 無料

32

●比較参考値例②

健康教育事業、健康相談事業、訪問事業



いずれも市民からのアプローチにより実施する事業であるため、他の市町村との比較は難しい。しかしながら、本事業は健康増進法に基づき県下どの市町村でも実施している事業であり、市民の健康を守る為には必要不可欠な事業である。

事業シート

事業の概要	事務事業名	災害用備蓄品購入事業				担当部	市長公室
						担当課	危機管理課
	事業期間	平成12年度以前 ~ 平成30年度以降				担当係	危機管理係
	実施・運営方法 ※費用合計に占める 経費の内訳(割合)	直接実施・ 運営	100 %	委託	0 %	助成	0 %
	目的 (対象をどのような 状態にするのか)	大規模災害時、自宅が倒壊し避難所に来た人や帰宅困難者などのために非常食を備蓄することで災害時の混乱防止を図る。					
	内容 (手段)	◆24年度実施内容 パークアリーナ小牧及び市庁舎地下1階の備蓄倉庫、避難所に指定してある各小中学校等の備蓄倉庫に非常食を保管する。 45,000食の非常食の備蓄を目標として、非常食の保存期限が5年であることから、毎年約8000食の買い替えを実施。 ◆24年度直接経費の内訳 消耗品費(1,590千円) アルファ米、乾パン、クラッカー、保存水等 ◆25年度直接経費の内訳 消耗品費(1,900千円) アルファ米、乾パン、クラッカー、保存水等					
受益者負担		無					

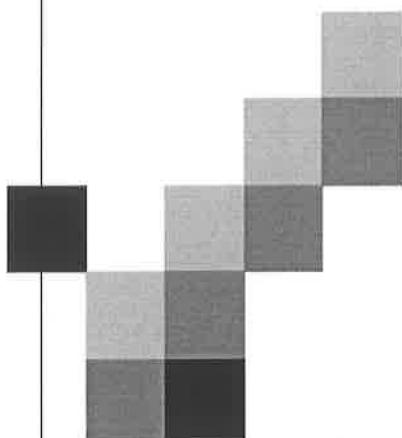
コスト			単位	H22決算額	H23決算額	H24決算額	H25予算額	
	費用	直接経費		千円	1,647	2,771	1,590	1,900
		正職員	従事者数	人	0.10	0.10	0.10	0.10
			人件費	千円	533	533	533	533
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
		費用合計		千円	2,180	3,304	2,123	2,433
		対前年比		%		151.5	64.2	114.6
	財源	一般財源		千円	2,180	3,304	2,123	2,433
		国・県支出金		千円	0	0	0	0
		その他財源		千円	0	0	0	0

業 績	活動指標名	単位		H22	H23	H24	H25
	飲料水の備蓄 (1本1.5ℓ)(単年度)	本	目標	160	160	160	160
			実績	160	160	160	
	非常食の備蓄(単年度)	食	目標	8,046	15,892	8,142	8,246
			実績	8,046	15,892	8,142	
			目標				
			実績				
	成果指標名	単位		H22	H23	H24	H25
	非常食の備蓄(累計)	食	目標	45,000	45,000	45,000	45,000
			実績	36,940	46,972	49,874	
飲料水の備蓄 (1本1.5ℓ)(累計)	本	目標	800	800	800	800	
		実績	576	576	736		

事業の自己評価	平成24年度の実施結果	事業の達成状況	非常食は備蓄品整備計画どおりの備蓄ができています。 飲料水については、年度内の目標購入量を確保できた。なお、年度購入量160本を継続し、平成25年度には備蓄目標数を確保できる予定。	
		事業実施における課題	45,000食の非常食備蓄を継続する一方で、大規模な災害が発生した場合、被災地域外から外部支援が入るまでは7日程度必要であるといわれており、その間、行政だけでは、すべての応急対応を行うことは困難であると考えられる。 住民に対し、1人7日分以上の食糧と水を備蓄するよう周知する必要がある。	
		事業を縮小・廃止したときの影響	災害発生時の非常事態の中で、避難市民の生命維持に必要な最低限の食糧補給が出来なくなる。	
	平成25年度の改善内容	25年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	今年度から開始した小牧防災リーダー会との協働事業により自主防災会や小中学校に対し防災・減災教育を実施することにより更なる防災意識の普及啓発を行なう。	
	平成26年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)
		判定理由	災害発生に備え、市民の生命を守る上で、備蓄目標の45,000食の確保は継続して取り組まなければならない。	
		26年度以降の改善案	行政だけではすべての応急対応を行うことは困難であると考えられるため、住民が相互に協力し、また、住民自らが、非常時の持出品の準備、1人7日分以上の食糧・飲料水・生活必需品等の備蓄をするよう各種事業をとおして啓発する。	

その他	比較参考値 (他自治体での類似事業の状況など)	小牧市(人口:153,170人)・・ 非常食:49,874食 飲料水:736本 春日井市(同:309,119人)・・ 非常食:61,902食 飲料水:30,048本 犬山市(同:75,388人)・・ 非常食:18,928食 飲料水:1,368本 江南市(同:101,508人)・・ 非常食:42,080食 飲料水:0本 岩倉市(同:47,658人)・・ 非常食:18,654食 飲料水:1,229本 (平成25年4月1日現在)
-----	----------------------------	--

事業番号3



- 事業名：災害用備蓄品購入事業
- 担当部課：市長公室危機管理課

1

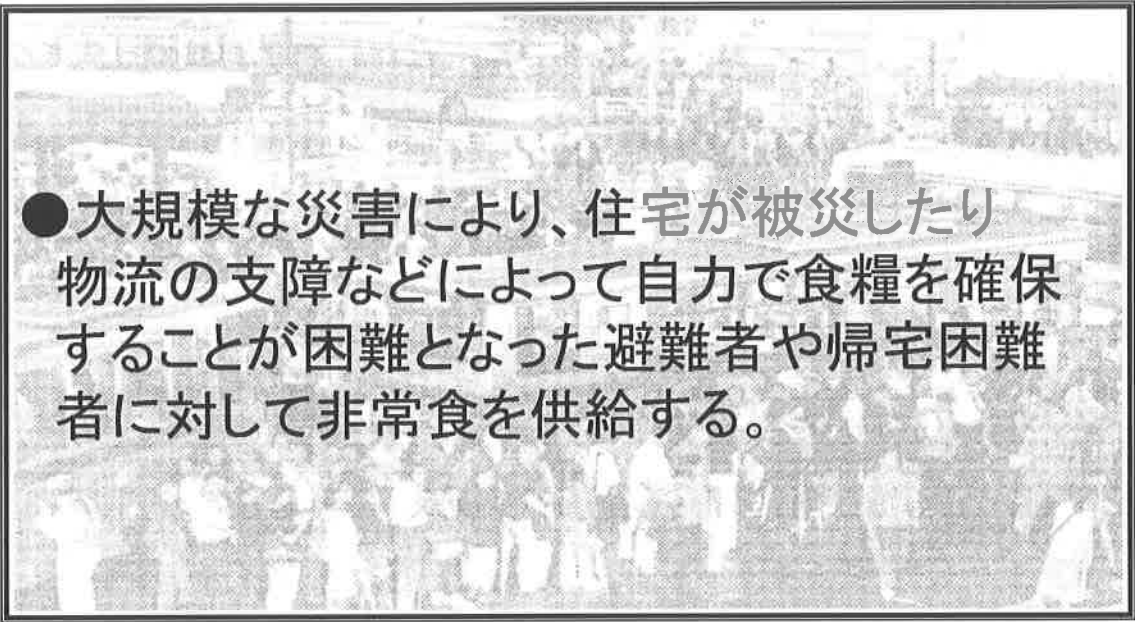
●事業期間(事業開始の経緯と現状)

平成7年度～

- 平成7年度より計画的な非常食の備蓄を開始。
(平成7年1月17日の阪神淡路大震災以降)
- 人口の10%(約1万5千人)の避難者を想定し、
3食分の4万5千食を目標に備蓄しています。
- 現在、備蓄目標数を達成しており、賞味期限切れとなる非常食の買い換えを主体的に実施しています。

2

●目的(対象をどのような状態にするのか)



●大規模な災害により、住宅が被災したり物流の支障などによって自力で食糧を確保することが困難となった避難者や帰宅困難者に対して非常食を供給する。

3

●内容(手段)①

◆平成24年度実施内容

- 地震時の避難所等に設置している防災備蓄倉庫41箇所のうち、賞味期限切れとなる非常食(アルファ米、乾パン、粉ミルク)の買い換えと、保存水、クラッカー、缶入パンを新たに購入。
- 賞味期限間近の非常食は、水防・防災訓練の炊き出しや地区で行う防災訓練の参加者に配布、消防フェアでの非常食の試食など防災啓発に活用した。

4

●内容(手段)②

◆平成24年度の経費の内訳

●非常食の購入(消耗品費:1,590千円)

品 名	購入数(食)	期限切れ(食)
アルファ米(※)	2,200	2,000
乾パン	4,096	3,240
粉ミルク(※)	96	96
保存水	160	
クラッカー	1,750	
缶入パン(※)	96	

(※)アレルギー対応のもの含む

5

●内容(手段)②

◆平成25年度の経費の内訳

●非常食の購入(消耗品費:1,900千円)

品 名	購入数(食)	期限切れ(食)
アルファ米(※)	2,200	2,200
乾パン	4,200	3,840
粉ミルク(※)	96	96
保存水	160	
クラッカー	1,750	
缶入パン(※)	96	

(※)アレルギー対応のもの含む

6

●受益者負担

無

7

●費用合計

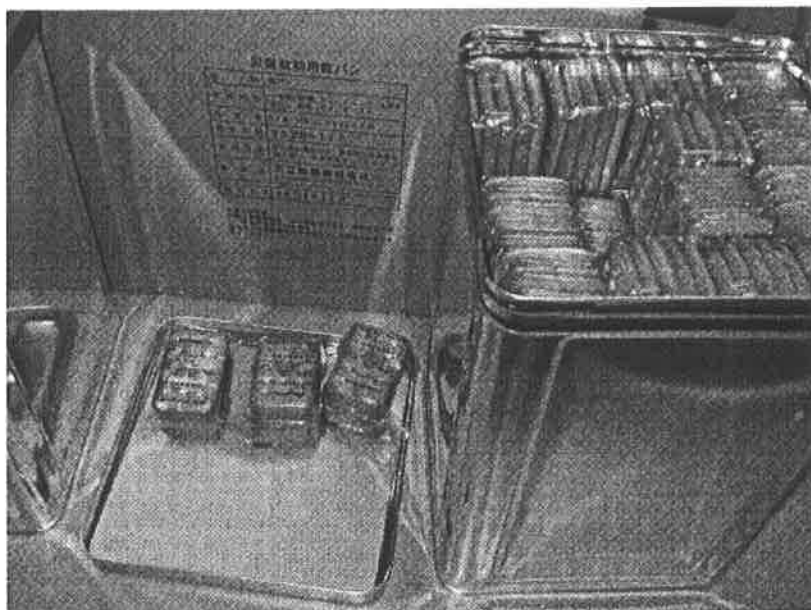
H24年度 2,123千円 H25年度 2,433千円

●財源

H24年度	一般財源	2,123千円
	国・県支出金	千円
	その他	千円
H25年度	一般財源	2,433千円
	国・県支出金	千円
	その他	千円

8

●事業のイメージ(写真・イラスト等)



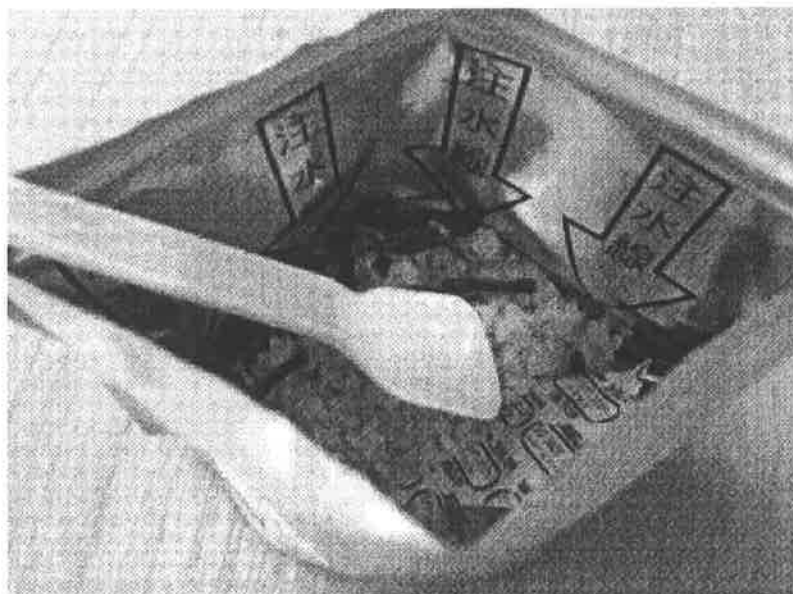
9

●事業のイメージ(写真・イラスト等)



10

●事業のイメージ(写真・イラスト等)



11

●事業のイメージ(写真・イラスト等)



12



13



14



15

●活動指標(事業の「内容(手段)」の実施量)

指標名:①飲料水の備蓄、②非常食の備蓄

H24の目標と実績

指標名	目標	実績
①	160本	160本
②	8, 142食	8, 142食

H25の目標

指標名	目標
①	160本
②	8, 246食

16

●成果指標(事業の「目的」の達成度)

指標名: ①非常食の備蓄(累計)、②飲料水の備蓄(累計)

H24の目標と実績

指標名	目標	実績
①	45,000食	49,874食
②	800本	736本

H25の目標

指標名	目標
①	45,000食
②	800本

17

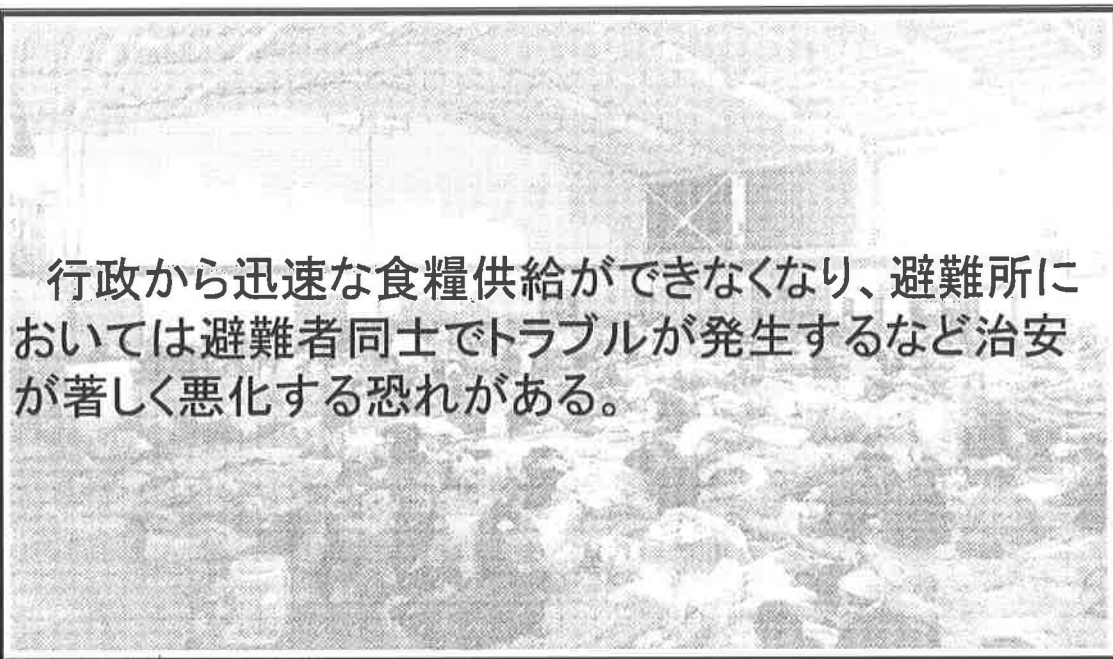
●事業実施における課題等

- 南海トラフ巨大地震のような超広域災害が発生した場合、1週間以上、外部からの支援が受けられない可能性がある。行政の備蓄だけでは対応が困難なため、市民に対して1人7日分以上の非常食を備蓄してもらう必要がある。
(自助・共助の推進)

- 小牧市地域防災計画で規定されている避難者数(人口の10%)に基づき、避難者数×3食分を目標に非常食を備蓄しているが、想定避難者数及び非常食の備蓄量が適正かどうか見直す必要がある。

18

●事業を縮小・廃止したときの影響



19

●25年度における事業の改善・見直し内容 (新規追加事項、廃止・削減事項等)

- 小牧防災リーダー会との協働事業により小中学校自主防災会に対して防災・減災教育を行うことで防災意識の高揚を図りながら、1人7日分以上の非常食の備蓄を促す。
- 防災訓練、防災講演会などで自分の身は自分で守る「自助」と近隣で助け合う「共助」の必要性をPRする。

20

●方向性の判定

維持（事業のボリュームを現状規模で維持）

●判定理由

市民の安心・安全を守るという観点から、行政で対応できる範囲で非常食の備蓄を継続し、災害発生時には迅速に避難者等へ供給する体制整備が必要であるため。

21

●26年度以降の改善案

- 引き続き小牧防災リーダー会との協働により小中学校や自主防災会に対して防災・減災教育を行い防災意識の高揚を図りながら、1人7日分以上の非常食の備蓄を促す。
- 小牧市の地震被害想定の見直しを行い、行政と市民が防災・減災のために担う役割を明確にすることで、自助と共助の推進を図る。

22

●比較参考値(他自治体での類似事業の状況など)

平成25年4月1日現在の数値

春日井市(309, 119人)

非常食:61, 902食 飲料水:30, 048本(500ml)

犬山市(75, 388人)

非常食:18, 928食 飲料水:1, 368本(1.5ℓ)

江南市(101, 508人)

非常食:42, 080食 飲料水:0本

岩倉市(47, 658人)

非常食:18, 654食 飲料水:1, 229本(1.5ℓ)

事業シート

事業の概要	事務事業名	多文化共生推進事業				担当部	市民産業部
						担当課	生活交流課
	事業期間	平成12年度以前 ～ 平成30年度以降				担当係	交流係
	実施・運営方法 ※費用合計に占める 経費の内訳(割合)	直接実施・ 運営	57.1 %	委託	42.9 %	助成	0 %
	目的 (対象をどのような 状態にするのか)	外国人市民と日本人市民が共生し、外国人と日本人の相互理解を深める。					
	内容 (手段)	◆24年度実施内容 ・外国語版生活情報誌において、従来の4ヶ国語(ポルトガル、スペイン、中国、英語)に加え「やさしい日本語」を発行 ・「多文化共生推進委員会・多文化共生実務担当者会議」を引き続き設置し、庁内の関係部課間で情報を共有 ・企業や各種関係団体との協議の場として「多文化共生協議会」を開催 ・外国人集住都市会議に参加し、国の関係機関へ提言等を実施 ・多文化共生セミナーの開催 ・外国人相談員を配置し、行政手続等への相談、通訳を実施 ◆24年度直接経費の内訳 ・外国語版生活情報誌作成委託料 9,828千円、その他1,029千円 ※25年度実施内容 ・外国語版生活情報誌において、4ヶ国語(ポルトガル、スペイン、中国、英語)及び「やさしい日本語」を発行 ・「多文化共生推進委員会・多文化共生実務担当者会議」を引き続き設置し、庁内の関係部課間で情報を共有 ・企業や各種関係団体との協議の場として「多文化共生協議会」を開催 ・外国人集住都市会議に参加し、国の関係機関へ提言等を実施 ・多文化共生研修の開催 ・外国人相談員を配置し、行政手続等への相談、通訳を実施 ・生活ガイドブック改訂版の発行 ・外国人向けアンケートの実施 ◆25年度直接経費の内訳 ・外国語版生活情報誌作成費 10,500千円、生活ガイドブック改訂版、外国人向けアンケートの印刷費及び郵送料 3,920千円、その他 1,922千円					
	受益者負担	無					

			単位	H22決算額	H23決算額	H24決算額	H25予算額
	直接経費		千円	13,640	10,344	10,857	16,342
コスト	費用	正職員	従事者数	人	1.21	1.20	1.20
			人件費	千円	6,449	6,396	6,396
		その他職員	従事者数	人	0.00	3.00	3.00
			人件費	千円	0	5,533	6,584
		費用合計		千円	20,089	22,273	23,030
		対前年比		%		110.8	103.3
	財源	一般財源		千円	20,089	22,273	23,030
		国・県支出金		千円	0	0	0
		その他財源		千円	0	0	0

業 績	活動指標名	単位		H22	H23	H24	H25
	多文化共生協議会	回	目標	5	4	3	3
			実績	6	4	3	
	外国語版生活情報誌 発行部数	部 /月	目標	3,800	4,000	4,000	4,000
			実績	3,800	4,000	4,000	
			目標				
			実績				
	成果指標名	単位		H22	H23	H24	H25
	相談件数	件	目標	—	—	—	—
			実績	5,304	5,686	6,639	
翻訳件数	件	目標	—	—	—	—	
		実績	32	44	48		

事業の自己評価

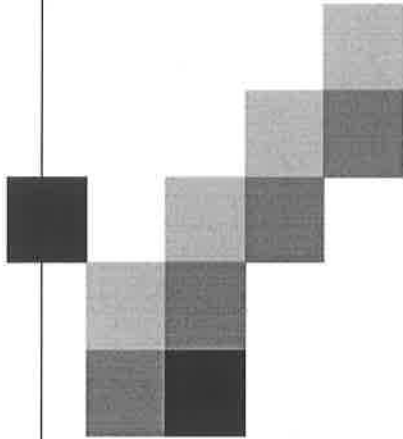
平成24年度の実施結果	事業の達成状況	外国人相談業務に加え、外国語版生活情報誌を発行し、行政情報のわかりやすい提供に努めた。また、多文化共生の必要性を広く浸透させるべく、庁内の多文化共生推進委員会委員、実務担当者及び市民へ「やさしい日本語」セミナーを開催した。	
	事業実施における課題	多文化共生事業は、継続的に行うことにより、初めて外国人と日本人が相互理解を深めることができる。今後も外国人の意識調査を取り入れ、新たな形の事業展開を図る必要がある。	
	事業を縮小・廃止したときの影響	外国人に対する相談業務や翻訳業務が実施できなくなると、プランに基づいて実施している各課の事業の支援ができなくなる。また、生活情報誌の縮小・廃止は、外国人への行政サービスの低下やイベント等への参加の減少につながる。	
平成25年度の改善内容	25年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	平成23年3月に策定した多文化共生プランの中間時期に当たるため、外国人市民アンケートを実施する。	
平成26年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)
	判定理由	外国人市民の定住化傾向が近年強まっている中、外国人施策は、一時的なものではないため、今後も継続して事業を実施していく必要がある。	
	26年度以降の改善案	外国人と日本人の相互理解を深めるため、情報の共有化を多言語で発信し、お互いに理解しあうことが必要である。そのためにも、多文化共生セミナーや交流会などを行い、相互の理解を深め、多文化共生の推進を図る。	

その他	比較参考値 (他自治体での類似事業の状況など)	(別紙)
-----	----------------------------	------

多文化共生推進事業 比較参考値（近隣市実施状況）

	人 口 (25.4.1現在)	う ち 外国人	比率 (%)	多文化共 生推進 プランの 有無	生活情報誌	相談業務
小牧市	153, 170	7, 165	4.7	あり	ポル、スベ、英、中、 やさしい日本語で毎月 1回作成	月～金 9:00～17:00 ポル、スベ
春日井市	309, 119	5, 758	1.9	あり	英、中で毎月2回作成	毎週水曜日 (第1～4週)
犬山市	75, 388	1, 704	2.3	なし	ポル、スベ、英、中、タ ガで年4回作成	英、中、タガを 週1回
江南市	101, 557	1, 495	1.5	なし	ポル、スベ、英、中(国 際交流協会)で毎月1 回作成	なし
岩倉市	47, 658	2, 204	4.6	なし	広報誌の中にポルの ページあり	相談業務としてはなし 窓口サポートあり

事業番号4



- 事業名：多文化共生推進事業
- 担当部課：市民産業部生活交流課

1

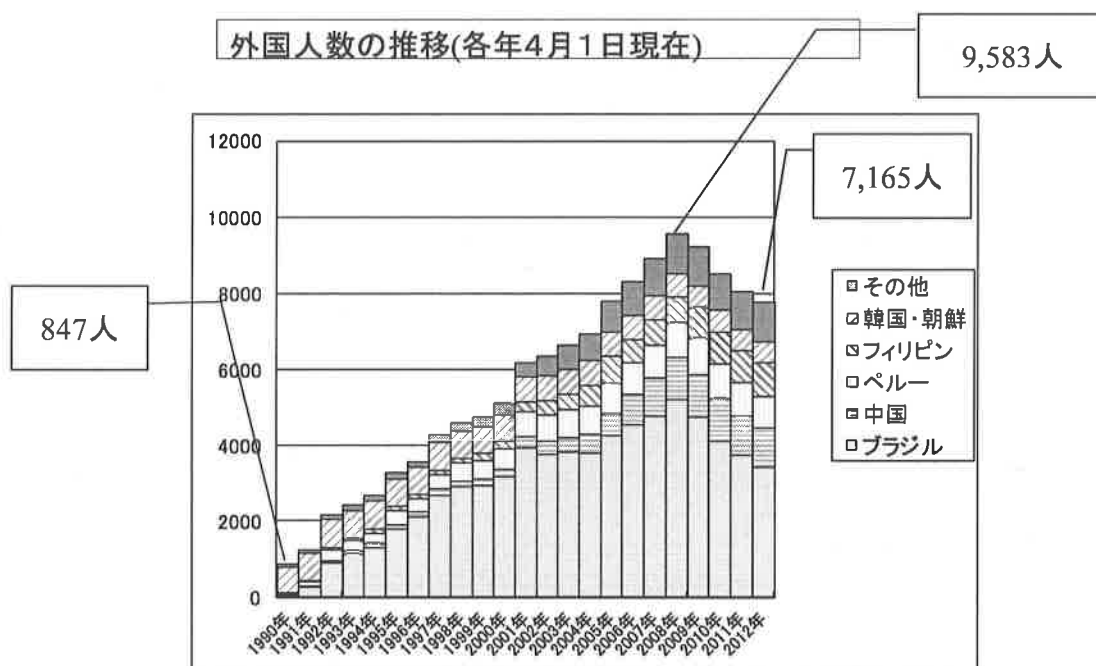
●多文化共生事業の目的は？

『みんな「こまき市民」、
助けあって笑顔で暮らせるまち！』

⇒外国人市民と日本人市民が共生し、外国人と日本人の相互理解を深める。

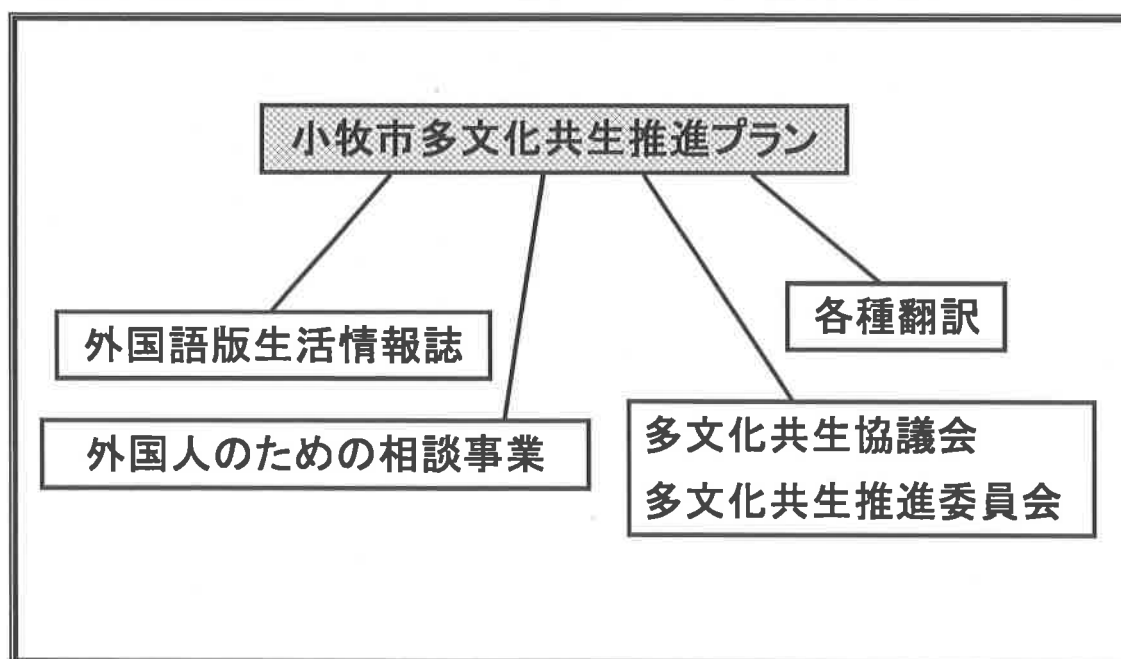
2

小牧市の外国人の数



3

●多文化共生推進事業の内容



4

●外国語版生活情報誌1

■内 容

生活に必要な情報を中心に6～10ページ

■発行言語

ポルトガル語、スペイン語、英語、中国語
やさしい日本語(平成24年度から)

■配布先

自治会、公共施設、小学校、中学校、保育園
企業、スーパー等

5

●外国語版生活情報誌2

生活情報誌2 ポルトガル版 2013年7月号

KOMAKI-Jornal Informativo

Sobre a Vida Cotidiana

7
2013

Conteúdo

- 11 Notícias e Anúncios
- 12 Notícias e Anúncios em Português
- 13 Notícias e Anúncios em Espanhol
- 14 Notícias e Anúncios em Inglês
- 15 Notícias e Anúncios em Chinês
- 16 Notícias e Anúncios em Japones
- 17 Notícias e Anúncios em Coreano
- 18 Notícias e Anúncios em Vietnamita
- 19 Notícias e Anúncios em Indonésio
- 20 Notícias e Anúncios em Tailandês
- 21 Notícias e Anúncios em Malaio
- 22 Notícias e Anúncios em Filipino
- 23 Notícias e Anúncios em Tagalo
- 24 Notícias e Anúncios em Hindi
- 25 Notícias e Anúncios em Urdu
- 26 Notícias e Anúncios em Bengali
- 27 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 28 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 29 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 30 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 31 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 32 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 33 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 34 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 35 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 36 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 37 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 38 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 39 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 40 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 41 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 42 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 43 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 44 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 45 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 46 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 47 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 48 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 49 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 50 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 51 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 52 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 53 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 54 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 55 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 56 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 57 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 58 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 59 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 60 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 61 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 62 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 63 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 64 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 65 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 66 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 67 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 68 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 69 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 70 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 71 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 72 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 73 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 74 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 75 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 76 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 77 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 78 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 79 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 80 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 81 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 82 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 83 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 84 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 85 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 86 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 87 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 88 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 89 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 90 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 91 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 92 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 93 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 94 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 95 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 96 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 97 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 98 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 99 Notícias e Anúncios em Sânscrito
- 100 Notícias e Anúncios em Sânscrito

Sobre como descartar o extintor de incêndio

① Solicitar a sua coleta nos postos especificados.

② Levantar a taxa de coleta nos postos especificados.

③ Solicitar a coleta no Central de Atendimento do Yu-pack (Tel. 0120-823-308).

④ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

⑤ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

⑥ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

⑦ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

⑧ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

⑨ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

⑩ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

⑪ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

⑫ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

⑬ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

⑭ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

⑮ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

⑯ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

⑰ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

⑱ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

⑲ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

⑳ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

㉑ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

㉒ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

㉓ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

㉔ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

㉕ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

㉖ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

㉗ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

㉘ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

㉙ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

㉚ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

㉛ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

㉜ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

㉝ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

㉞ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

㉟ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

㊱ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

㊲ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

㊳ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

㊴ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

㊵ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

㊶ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

㊷ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

㊸ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

㊹ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

㊺ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

㊻ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

㊼ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

㊽ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

㊾ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

㊿ Solicitar a taxa de coleta no Central de Atendimento do Yu-pack.

6

●外国人のための相談事業

■内容

ポルトガル語 月～金 9:00～17:00

スペイン語、英語 月、火、木 9:00～17:00

※ 12:00～13:00は休憩

■相談件数

延べ6,639件(553件／月)

■翻訳件数

48件(延べ104件)

7

●外国人のための相談事業2



外国人相談員

相談の様子



8

●推進体制の確立

■小牧市多文化共生協議会

外国人市民(公募)、自治会、企業、関係団体の代表で組織

- ・多文化共生に関する事項について調査審議し、必要に応じて市長に意見を述べる。

■小牧市多文化共生推進委員会

市役所の多文化共生の関係各課において組織

- ・庁内各課相互の情報交換及び連絡調整
- ・多文化共生を推進するための課題等の協議及び検討など

9

●その他

■多文化共生セミナーの開催

「やさしい日本語」セミナー～外国人と簡単にコミュニケーション～

日時:平成24年5月31日

午後6:30～8:00

場所:東庁舎大会議室



10

●受益者負担

受益者負担はありません。

11

●費用合計

H24年度23,030千円 H25年度29,322千円

●財源

H24年度	一般財源	23,030千円
	国・県支出金	千円
	その他	千円
H25年度	一般財源	29,322千円
	国・県支出金	千円
	その他	千円

12

●活動指標(事業の「内容(手段)」の実施量)

■指標名: 多文化共生協議会

H24の目標と実績: 目標 3回

実績 3回

H25の目標 : 目標 3回

■指標名: 外国語版生活情報誌

H24の目標と実績: 目標 4,000部/月

実績 4,000部/月

H25の目標 : 目標 4,000部/月

13

●成果指標(事業の「目的」の達成度)

■指標名: 相談件数

H24の目標と実績: 目標 —

実績 6,639件

H25の目標 : 目標 —

■指標名: 翻訳件数

H24の目標と実績: 目標 —

実績 48件

H25の目標 : 目標 —

14

●事業実施における課題等

■定住化・永住化傾向

⇒地域社会の構成員として共生

■課題、ニーズの把握の必要性

15

●25年度における事業の改善・見直し内容 (新規追加事項、廃止・削減事項等)

■多文化共生推進プランの中間評価

■外国人市民アンケートの実施

16

●方向性の判定

維持

●判定理由

外国人市民の定住化傾向が近年強まっている中、外国人施策は、一時的なものではないため、今後も継続して事業を実施していく必要がある。

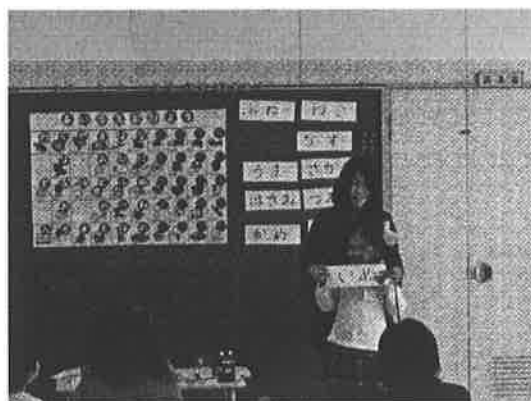
17

●比較参考値(他自治体での類似事業の状況など)

	人 口 (25.4.1現在)	う ち 外国人	比率 (%)	多文化共 生推進 プランの 有無	生活情報誌	相談業務
小牧市	153, 170	7, 165	4.7	あり	ポル、スペ、英、中、 やさしい日本語で毎月 1回作成	月～金 9:00～17:00 ポル、スペ
春日井市	309, 119	5, 758	1.9	あり	英、中で毎月2回作成	毎週水曜日 (第1～4週)
犬山市	75, 388	1, 704	2.3	なし	ポル、スペ、英、中、タ ガで年4回作成	英、中、タガを 週1回
江南市	101, 557	1, 495	1.5	なし	ポル、スペ、英、中(国 際交流協会)で毎月1 回作成	なし
岩倉市	47, 658	2, 204	4.6	なし	広報誌の中にポルの ページあり	相談業務としてはなし 窓口サポートあり

18

●プレスクールの様子



《メモ》

発 行/小牧市役所 小牧市堀の内三丁目1番地
事務局/市長公室 市政戦略課 行政経営係

Tel : 0568-76-1156

Fax : 0568-75-5714

Mail : shisei@city.komaki.lg.jp